

第 3 章 調査結果

<従業員調査>

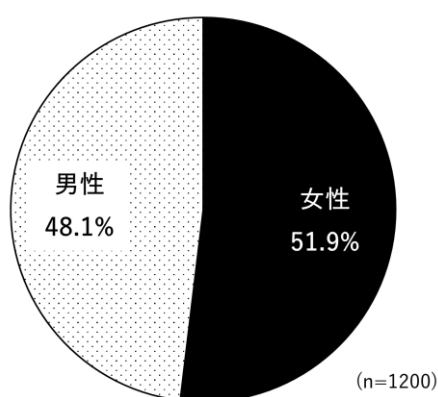
I. 回答者属性

1. 性別、年代、就業形態

(1) 性別

性別構成は、「女性」が51.9%、「男性」が48.1%となっている。

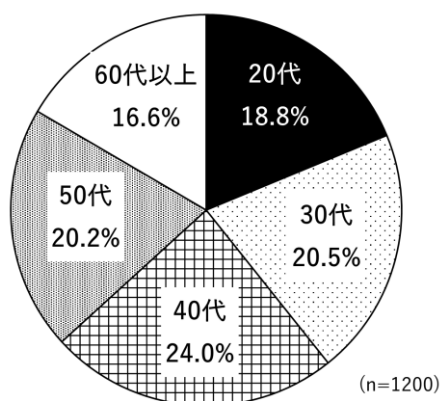
図表 I -1 性別



(2) 年代

年代をみると、「40代」が最も多く24.0%、次いで「30代」が20.5%、「50代」が20.2%となっている。

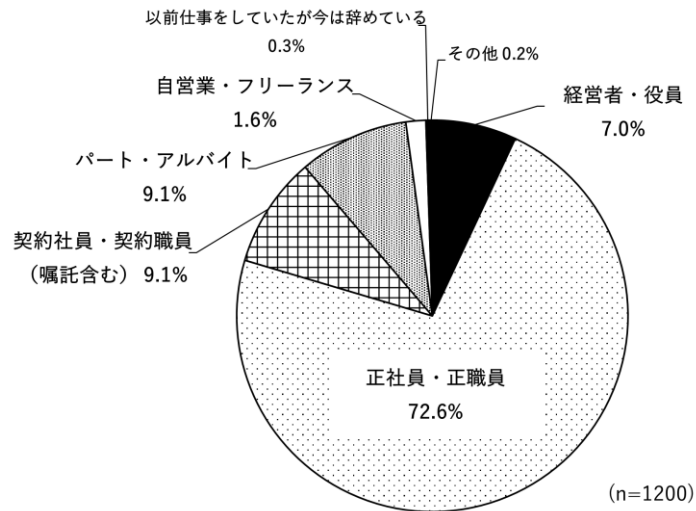
図表 I -2 年代



(3) 就業形態

就業形態をみると、「正社員・正職員」が最も多く 72.6%、次いで「契約社員・契約職員（嘱託含む）」と「パート・アルバイト」がそれぞれ 9.1%、「経営者・役員」が 7.0%となっている。

図表 1-3 就業形態



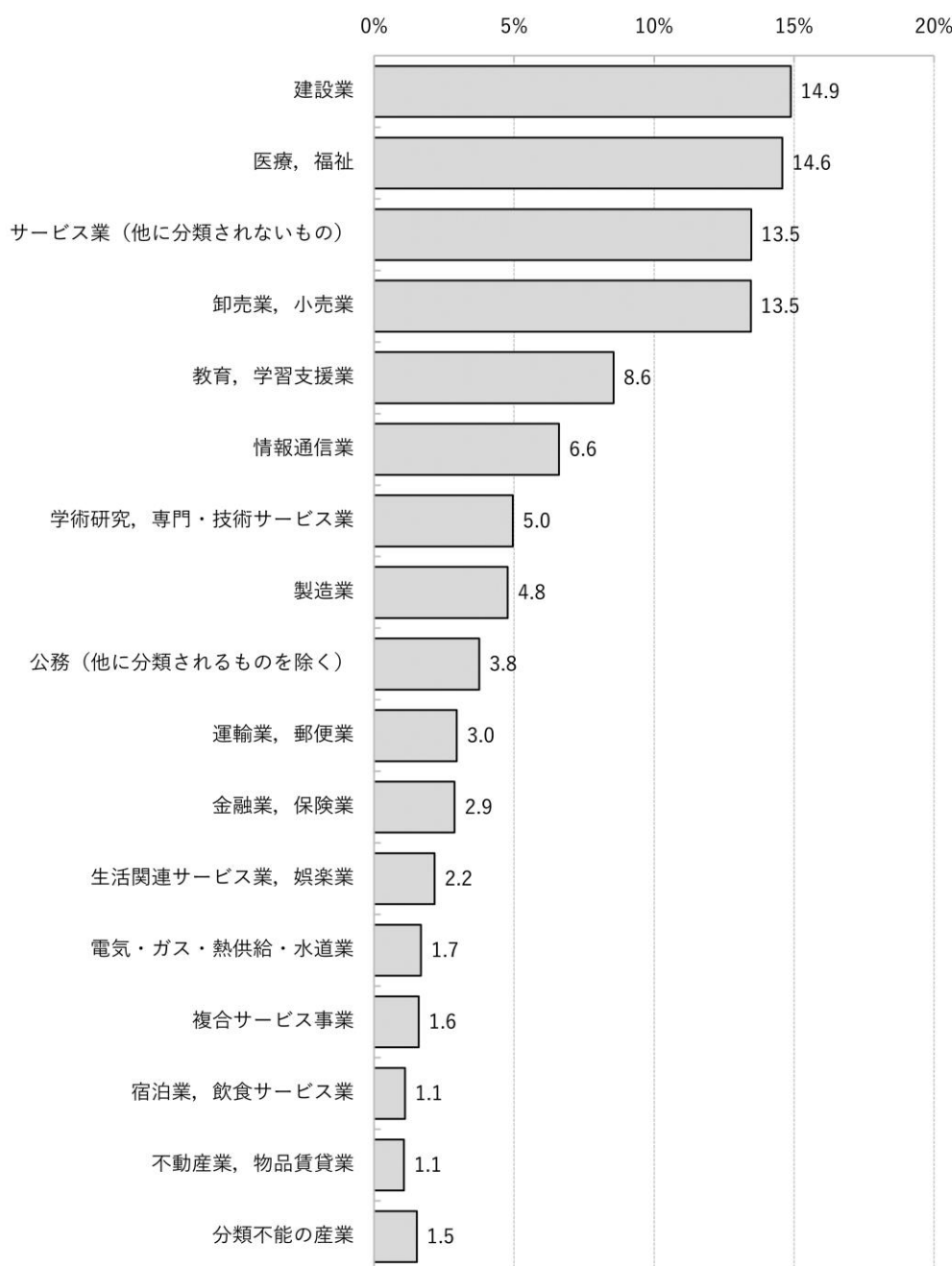
2. 勤務先の状況

(1) 勤務先の業種

勤務先の業種をみると、「建設業」が最も多く14.9%、次いで「医療、福祉」が14.6%、「サービス業（他に分類されないもの）」、「卸売業、小売業」が13.5%となっている。

図表 I-4 勤務先の業種

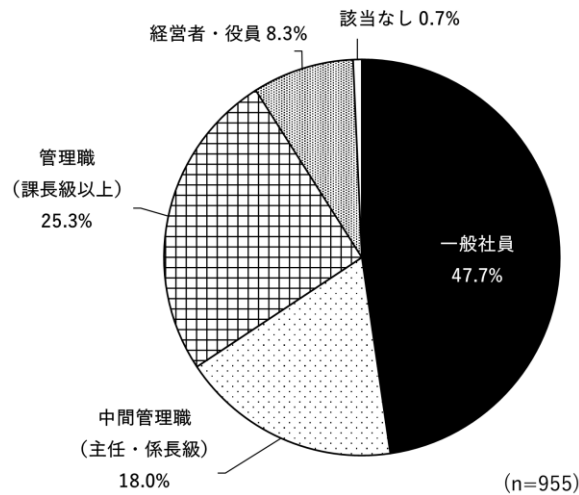
(n=1174)



(2) 勤務先での役職

勤務先での役職をみると、「一般社員」が最も多く 47.7%、次いで「管理職（課長級以上）」が 25.3%、「中間管理職（主任・係長級）」が 18.0%となっている。

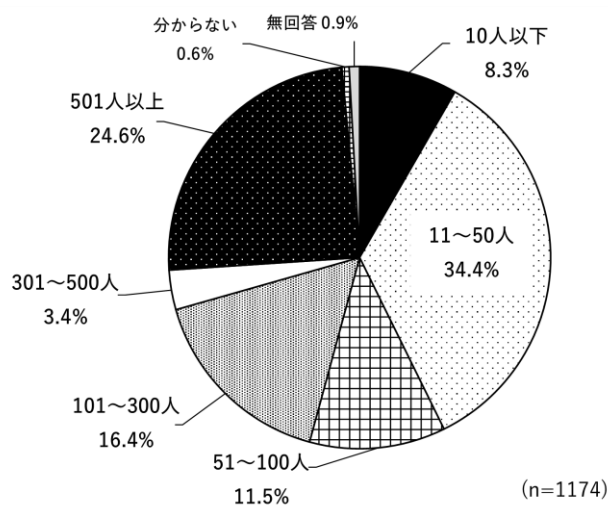
図表 I-5 勤務先での役職



(3) 勤務先の従業員数

勤務先の従業員数をみると、「11～50人」が最も多く 34.4%、次いで「501人以上」が 24.6%、「101～300人」が 16.4%となっている。

図表 I-6 勤務先の従業員数

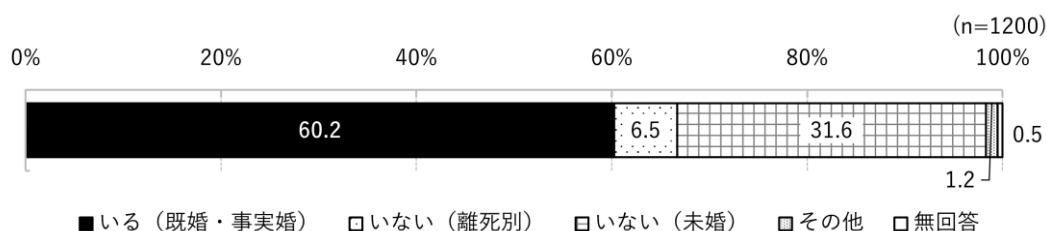


3. その他

(1) 配偶者（パートナー）の有無

配偶者（パートナー）の有無をみると、「いる（既婚・事実婚）」が最も多く 60.2%、次いで「いない（未婚）」が 31.6%となっている。

図表 I-7 配偶者（パートナー）の有無

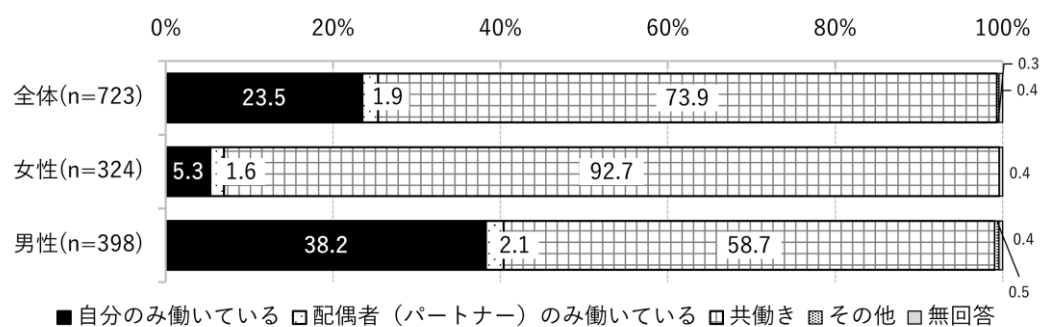


(2) 現在の働き方

現在の働き方をみると、「共働き」が最も多く 73.9%、次いで「自分のみ働いている」が 23.5%となっている。

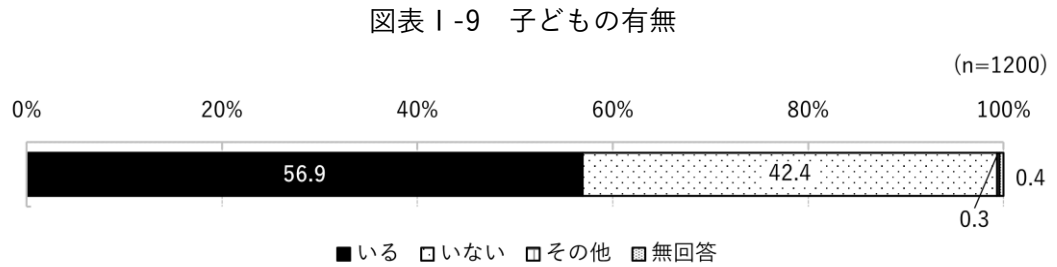
男女別にみると、女性では「共働き」が 92.7%を占め、男性では「共働き」が 58.7%、次いで「自分のみ働いている」が 38.2%となっている。

図表 I-8 現在の働き方



(3) 子どもの有無

子どもの有無をみると、「いる」が最も多く56.9%、次いで「いない」が42.4%となっている。

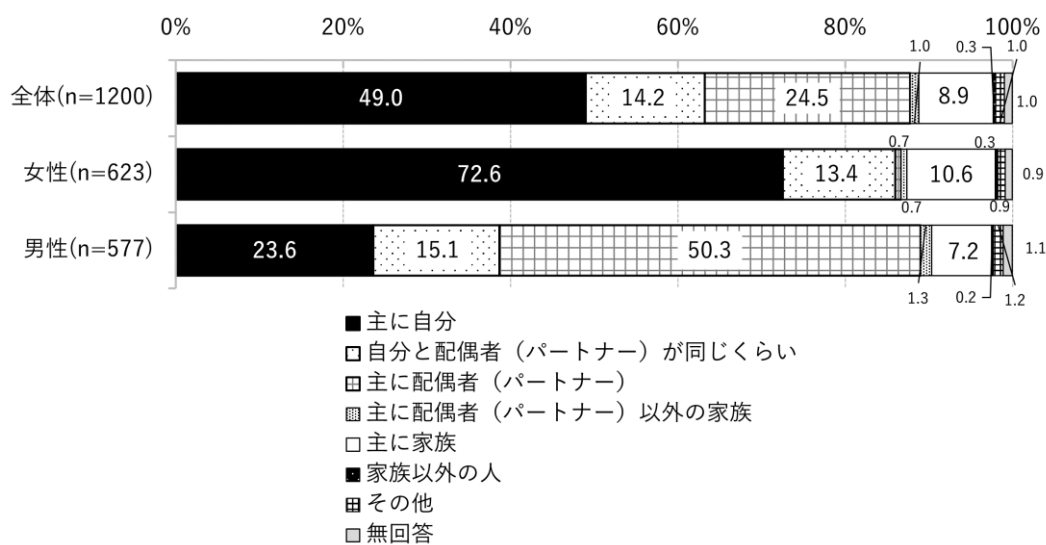


(4) 家事・育児等の役割

家事（炊事・掃除・洗濯等）・育児等は主に誰が行っていますか。

家事・育児等の役割について男女別にみると、女性では「主に自分」が72.6%、男性では「主に配偶者（パートナー）」が最も多く50.3%となっている。

図表 I -10 家事・育児等の役割

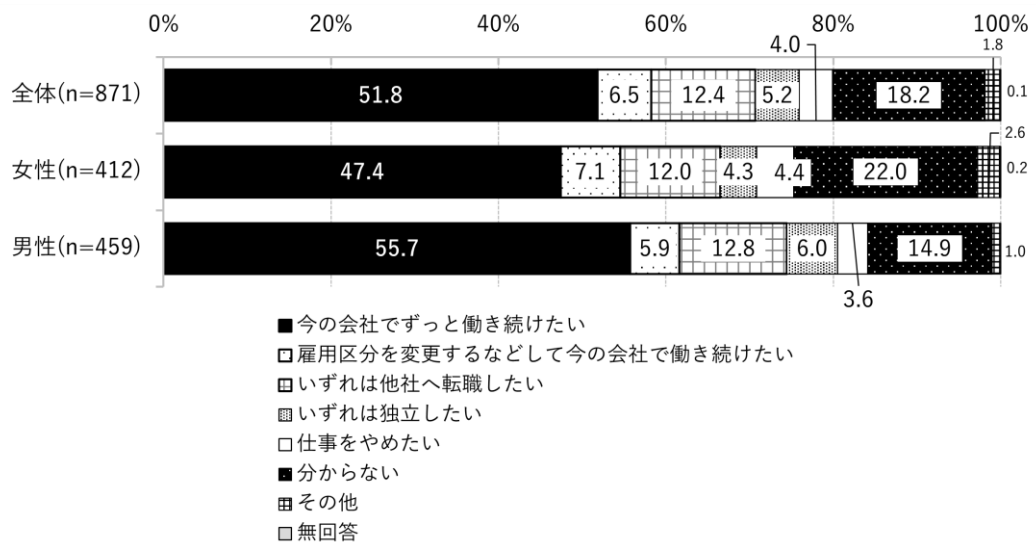


(5) 今後の働き方に対する考え方

今後の働き方に対する考え方をみると、「今の会社ですっと働き続けたい」が最も多く51.8%、次いで「分からない」が18.2%となっている。

男女別にみると、男女ともに「今の会社ですっと働き続けたい」が最も多く、女性で47.4%、男性で55.7%となっている。

図表 I-11 今後の働き方に対する考え方



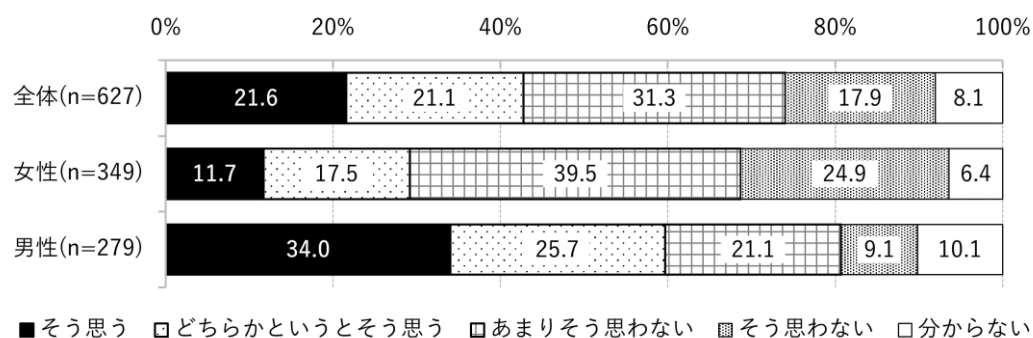
(6) 管理職志向

機会があれば、いずれ管理職として働きたいと思えますか。

機会があれば、いずれ管理職として働きたいかどうか聞いたところ、「あまりそう
 思わない」が最も多く 31.3%、次いで「そう思う」が 21.6%となっている。

男女別にみると、男性では「そう思う」が 34.0%と最も多く、次いで「どちらか
 というとそう思う」が 25.7%となっている。一方、女性では「あまりそう
 思わない」が 39.5%と最も多く、次いで「そう思わない」が 24.9%となっ
 ている。

図表 I-12 管理職志向



Ⅱ. 女性・男性特有の健康課題等に関する実態

1. 認知度

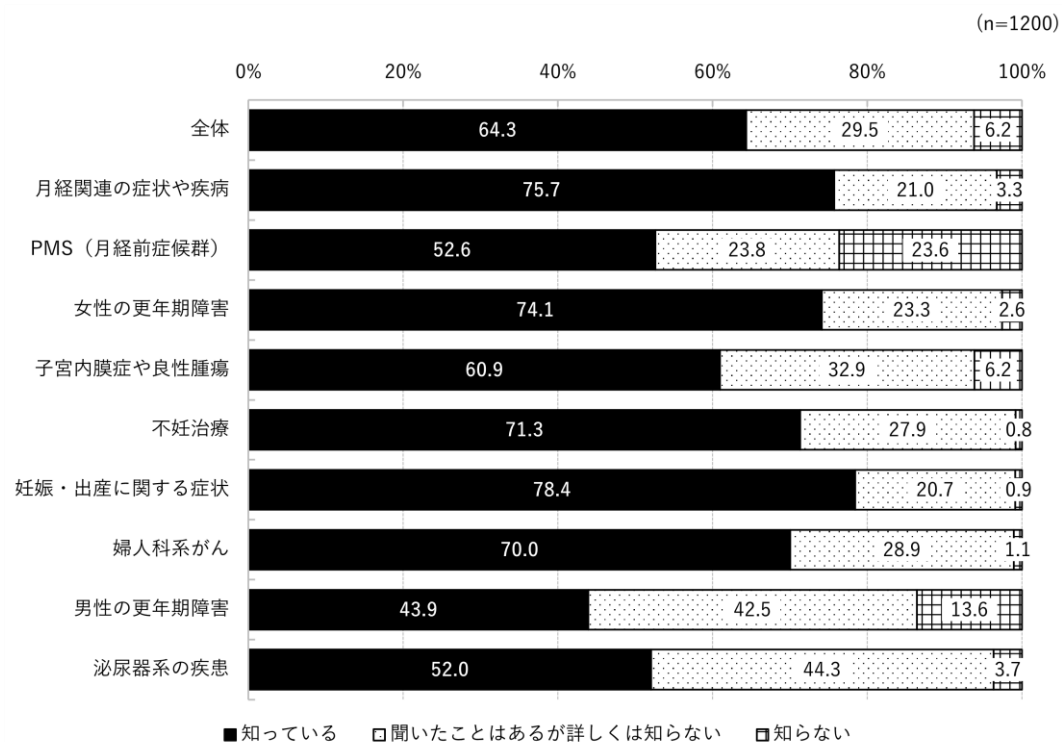
(1) 女性・男性特有の健康課題の認知度

Q14. 次の症状名を知っている、または聞いたことがありますか。

女性・男性特有の健康課題の認知度については、健康課題全体を通じた傾向を把握するため、9つの症状名の回答数をすべて足しあげた上で、各選択肢の回答割合を集計した。その結果、「知っている」との回答は64.3%となっている。

各症状別にみると、認知度が最も高い症状名は「妊娠・出産に関する症状（つわり・流産・早産・死産・産後うつ等）」で78.4%、次いで「月経関連の症状や疾病（月経不順・月経痛等）」で75.7%となっている。一方、認知度が最も低い症状名は、「男性の更年期障害（関節・筋肉痛、ほてりや発汗、疲労感等）」で43.9%、「泌尿器系の疾患（前立腺がん、前立腺肥大症、前立腺炎等）」で52.0%となっている。

図表Ⅱ-1 女性・男性特有の健康課題の認知度



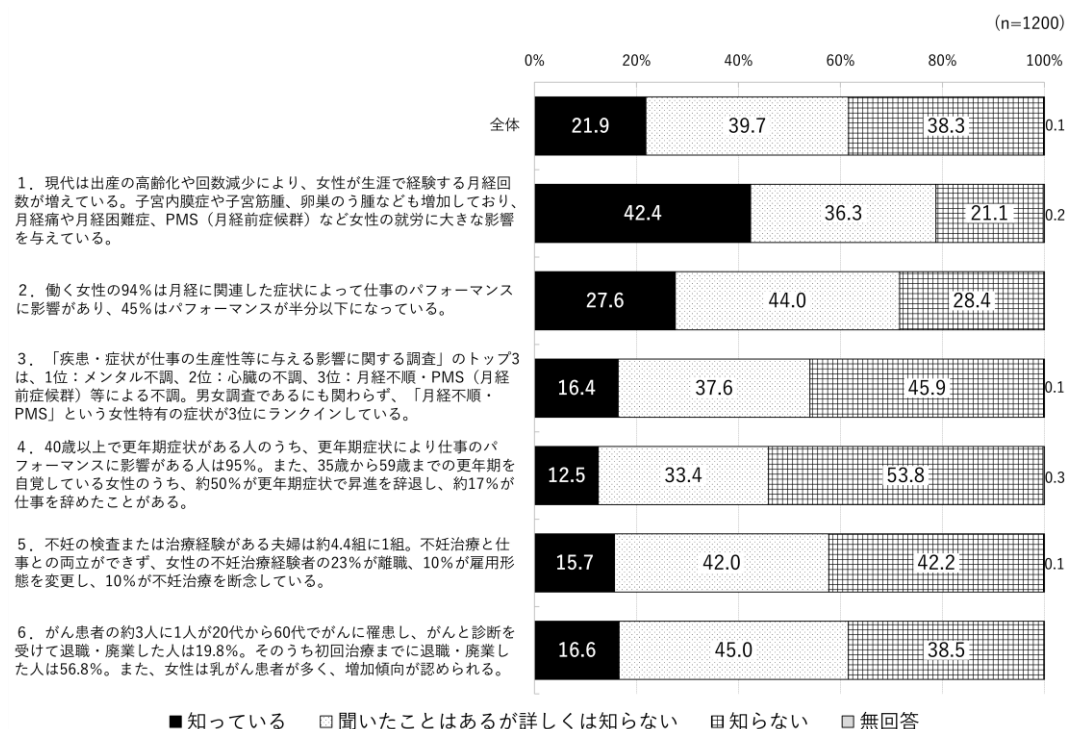
(2) 女性特有の健康課題の社会的影響の認知度

Q15. 特に女性特有とされる健康課題が、組織や社会に以下のような影響を与えていることを知っていますか。

女性特有の健康課題の社会的影響の認知度については、事項全体を通じた傾向を把握するため、6つの事項の回答数をすべて足しあげた上で、各選択肢の回答割合を集計した。その結果、「知っている」との回答は21.9%となっている。

各事項別にみると、認知度が最も高いのは「1. 現代は出産の高齢化や回数減少により、女性が生涯で経験する月経回数が増えている。子宮内膜症や子宮筋腫、卵巣のう腫なども増加しており、月経痛や月経困難症、PMS（月経前症候群）など女性の就労に大きな影響を与えている」で42.4%、次いで、「2. 働く女性の94%は月経に関連した症状によって仕事のパフォーマンスに影響があり、45%はパフォーマンスが半分以下になっている」で27.6%となっている。最も認知度が低い事項は、「4. 40歳以上で更年期症状がある人のうち、更年期症状により仕事のパフォーマンスに影響がある人は95%。また、35歳から59歳までの更年期を自覚している女性のうち、約50%が更年期症状で昇進を辞退し、約17%が仕事を辞めたことがある」で12.5%となっている。

図表 II-2 女性特有の健康課題の社会的影響の認知度



(3) 男女別の傾向

①女性・男性特有の健康課題の認知度

女性・男性特有の健康課題の認知度について、男女別の傾向をみると、女性特有の健康課題に関する全ての症状名において、男性の「知っている」の割合は全体よりも10ポイント以上低い結果となっている。特に、「PMS（月経前症候群）」では28.2ポイント低く、24.4%となっている。また、「月経関連の症状や疾病（月経不順・月経痛等）」(20.4ポイント)、「女性の更年期障害（のぼせ、ほてり、多汗等）」(17.0ポイント)、「子宮内膜症や良性腫瘍（卵巣のう腫、子宮筋腫等）」(17.9ポイント)、「妊娠・出産に関する症状（つわり・流産・早産・死産・産後うつ等）」(10.5ポイント)、「婦人科系がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がん等）」(14.5ポイント)についても、男性のほうが低い結果となっている。

図表 II-3 女性・男性特有の健康課題の認知度（男女別）

単位：(%)

		n 数	知 っ て い る	は あ 聞 ら が た な い し と く は	知 ら な い
月経関連の症状や疾病	全体	(1200)	75.7	21.0	3.3
	女性	(623)	94.7	4.9	0.4
	男性	(577)	55.3	38.4	6.3
PMS（月経前症候群）	全体	(1200)	52.6	23.8	23.6
	女性	(623)	78.7	15.0	6.3
	男性	(577)	24.4	33.3	42.3
女性の更年期障害	全体	(1200)	74.1	23.3	2.6
	女性	(623)	89.9	9.4	0.7
	男性	(577)	57.1	38.3	4.6
子宮内膜症や良性腫瘍	全体	(1200)	60.9	32.9	6.2
	女性	(623)	77.6	22.0	0.4
	男性	(577)	43.0	44.6	12.4
不妊治療	全体	(1200)	71.3	27.9	0.8
	女性	(623)	79.6	20.3	0.1
	男性	(577)	62.3	36.0	1.6
妊娠・出産に関する症状	全体	(1200)	78.4	20.7	0.9
	女性	(623)	88.2	11.5	0.3
	男性	(577)	67.9	30.6	1.5
婦人科系がん	全体	(1200)	70.0	28.9	1.1
	女性	(623)	83.5	16.3	0.2
	男性	(577)	55.5	42.5	2.0
男性の更年期障害	全体	(1200)	43.9	42.5	13.6
	女性	(623)	46.8	40.8	12.3
	男性	(577)	40.7	44.3	14.9
泌尿器系の疾患	全体	(1200)	52.0	44.3	3.7
	女性	(623)	53.1	42.2	4.6
	男性	(577)	50.8	46.5	2.7

②女性・男性特有の健康課題の社会的影響の認知度

女性・男性特有の健康課題の社会的影響の認知度について、男女別の傾向をみると、全ての事項において女性のほうが男性よりも認知度が高い。

また、全体平均と比較すると、特に「1. 現代は出産の高齢化や回数減少により、女性が生涯で経験する月経回数が増えている。子宮内膜症や子宮筋腫、卵巣のう腫なども増加しており、月経痛や月経困難症、PMS（月経前症候群）など女性の就労に大きな影響を与えている」（18.7 ポイント）と「2. 働く女性の94%は月経に関連した症状によって仕事のパフォーマンスに影響があり、45%はパフォーマンスが半分以下になっている」（11.6 ポイント）の項目において、男性の「知っている」の割合が全体平均よりも低い結果となっている。

図表 II-4 女性特有の健康課題の社会的影響の認知度（男女別）

単位：(%)

		n 数	知 っ て い る	はあ聞 知る ら が た な 詳 こ し と く は	知 ら な い
1. 現代は出産の高齢化や回数減少により、女性が生涯で経験する月経回数が増えている。子宮内膜症や子宮筋腫、卵巣のう腫なども増加しており、月経痛や月経困難症、PMS（月経前症候群）など女性の就労に大きな影響を与えている。	全体	(1200)	42.4	36.3	21.1
	女性	(623)	59.8	30.7	9.6
	男性	(577)	23.7	42.4	33.4
2. 働く女性の94%は月経に関連した症状によって仕事のパフォーマンスに影響があり、45%はパフォーマンスが半分以下になっている。	全体	(1200)	27.6	44.0	28.4
	女性	(623)	38.4	43.1	18.5
	男性	(577)	16.0	45.0	39.1
3. 「疾患・症状が仕事の生産性等に与える影響に関する調査」のトップ3は、1位：メンタル不調、2位：心臓の不調、3位：月経不順・PMS等による不調。男女調査であるにも関わらず、「月経不順・PMS」という女性特有の症状が3位にランクインしている。	全体	(1200)	16.4	37.6	45.9
	女性	(623)	21.9	40.1	37.9
	男性	(577)	10.5	34.9	54.6
4. 40歳以上で更年期症状がある人のうち、更年期症状により仕事のパフォーマンスに影響がある人は95%。また、35歳から59歳までの更年期を自覚している女性のうち、約50%が更年期症状で昇進を辞退し、約17%が仕事を辞めたことがある。	全体	(1200)	12.5	33.4	53.8
	女性	(623)	16.4	34.8	48.2
	男性	(577)	8.4	31.8	59.9
5. 不妊の検査または治療経験がある夫婦は約4.4組に1組。不妊治療と仕事との両立ができず、女性の不妊治療経験者の23%が離職、10%が雇用形態を変更し、10%が不妊治療を断念している。	全体	(1200)	15.7	42.0	42.2
	女性	(623)	19.6	47.1	33.0
	男性	(577)	11.4	36.6	52.0
6. がん患者の約3人に1人が20代から60代でがんに罹患し、がんと診断を受けて退職・廃業した人は19.8%。そのうち初回治療までに退職・廃業した人は56.8%。また、女性は乳がん患者が多く、増加傾向が認められる。	全体	(1200)	16.6	45.0	38.5
	女性	(623)	21.2	47.8	30.9
	男性	(577)	11.6	41.9	46.6

※表頭の「無回答」は掲載しない

2. 女性・男性特有の健康課題の現状

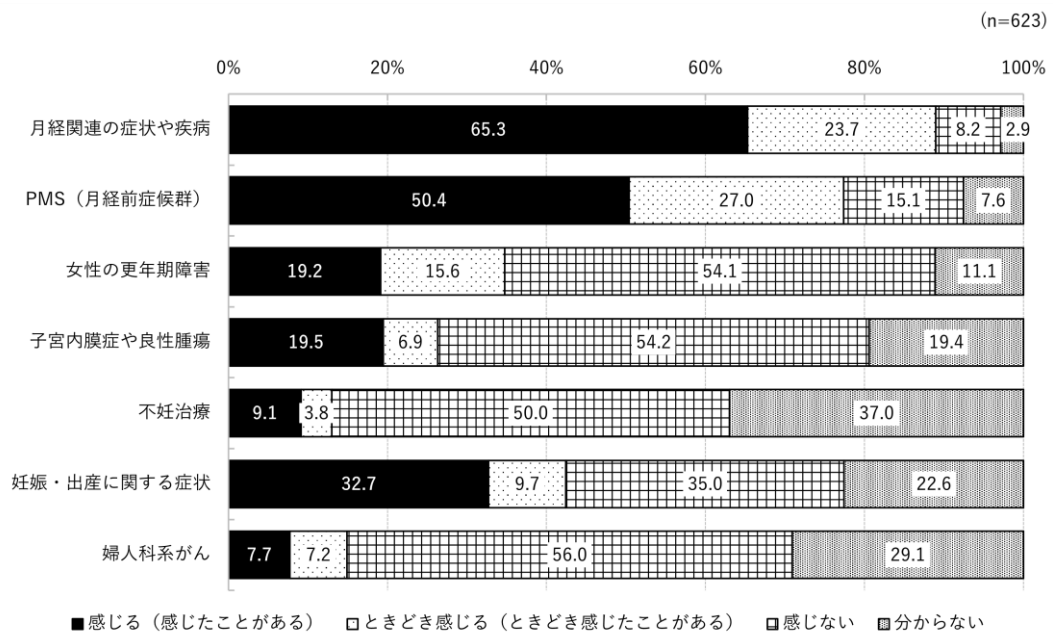
(1) 女性特有の健康課題の症状を抱える割合

Q16. 次のうち、痛みや症状を感じる（もしくは過去感じたことのある）ものはありますか。該当するものすべてにチェックしてください。

女性特有の健康課題に関して、痛みや症状を感じるものがあるか聞いたところ、「月経関連の症状や疾病（月経不順・月経痛等）」では、「感じる（感じたことがある）」が65.3%、「ときどき感じる（ときどき感じたことがある）」が23.7%と、合わせて89.0%の人が症状を感じる経験をしている。

また、「PMS（月経前症候群）」では、「感じる（感じたことがある）」が50.4%、「ときどき感じる（ときどき感じたことがある）」が27.0%と、合わせて77.4%の人が症状を感じる経験をしている。

図表 II-5 女性特有の健康課題の症状を抱える割合



(2) 年代別の傾向

女性特有の健康課題の症状を抱える割合について、年代別の傾向をみると、「PMS（月経前症候群）」では「20代」の割合が12.3ポイント高い。

また、「女性の更年期障害（のぼせ、ほてり、多汗等）」については、「50代」で29.8ポイント、「60代」で13.2ポイント高く、「子宮内膜症や良性腫瘍（卵巣のう腫、子宮筋腫等）」については、「50代」で10.6ポイント高い結果となっている。

図表 II-6 女性特有の健康課題の症状を抱える割合（年代別）

単位：(%)

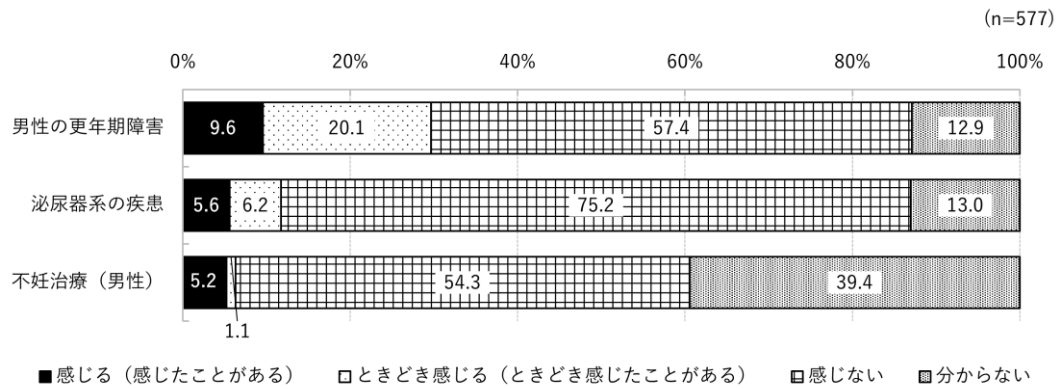
		n 数	る（感じる こと があ	と（ときどき ある） 感じる こ	感じ ない	分 か ら ない
PMS（月経前症候群）	全体	(623)	50.4	27.0	15.1	7.6
	20代	(119)	62.7	20.9	10.4	6.0
	30代	(128)	54.9	26.3	12.0	6.9
	40代	(148)	47.9	31.8	16.4	3.8
	50代	(125)	39.8	30.6	18.9	10.7
	60代	(104)	47.1	23.5	17.6	11.8
女性の更年期障害	全体	(623)	19.2	15.6	54.1	11.1
	20代	(119)	1.5	1.5	88.1	9.0
	30代	(128)	2.3	8.6	67.4	21.7
	40代	(148)	13.6	23.8	51.4	11.2
	50代	(125)	49.0	22.4	21.9	6.6
	60代	(104)	32.4	20.6	41.2	5.9
子宮内膜症や良性腫瘍	全体	(623)	19.5	6.9	54.2	19.4
	20代	(119)	11.9	3.0	65.7	19.4
	30代	(128)	11.4	5.7	60.6	22.3
	40代	(148)	22.7	4.9	53.1	19.2
	50代	(125)	30.1	7.7	49.0	13.3
	60代	(104)	20.6	14.7	41.2	23.5

(3) 男性特有の健康課題の症状を抱える割合

Q18. 次のうち、痛みや症状を感じる（もしくは過去感じたことのある）ものはありますか。該当するものすべてにチェックしてください。

男性特有の健康課題に関して、痛みや症状を感じるものがあるか聞いたところ、「男性の更年期障害（関節・筋肉痛、ほてりや発汗、疲労感等）」で、「感じる（感じたことがある）」の割合が9.6%、「ときどき感じる（ときどき感じたことがある）」の割合が20.1%となっている。

図表 II-7 男性特有の健康課題の症状を抱える割合



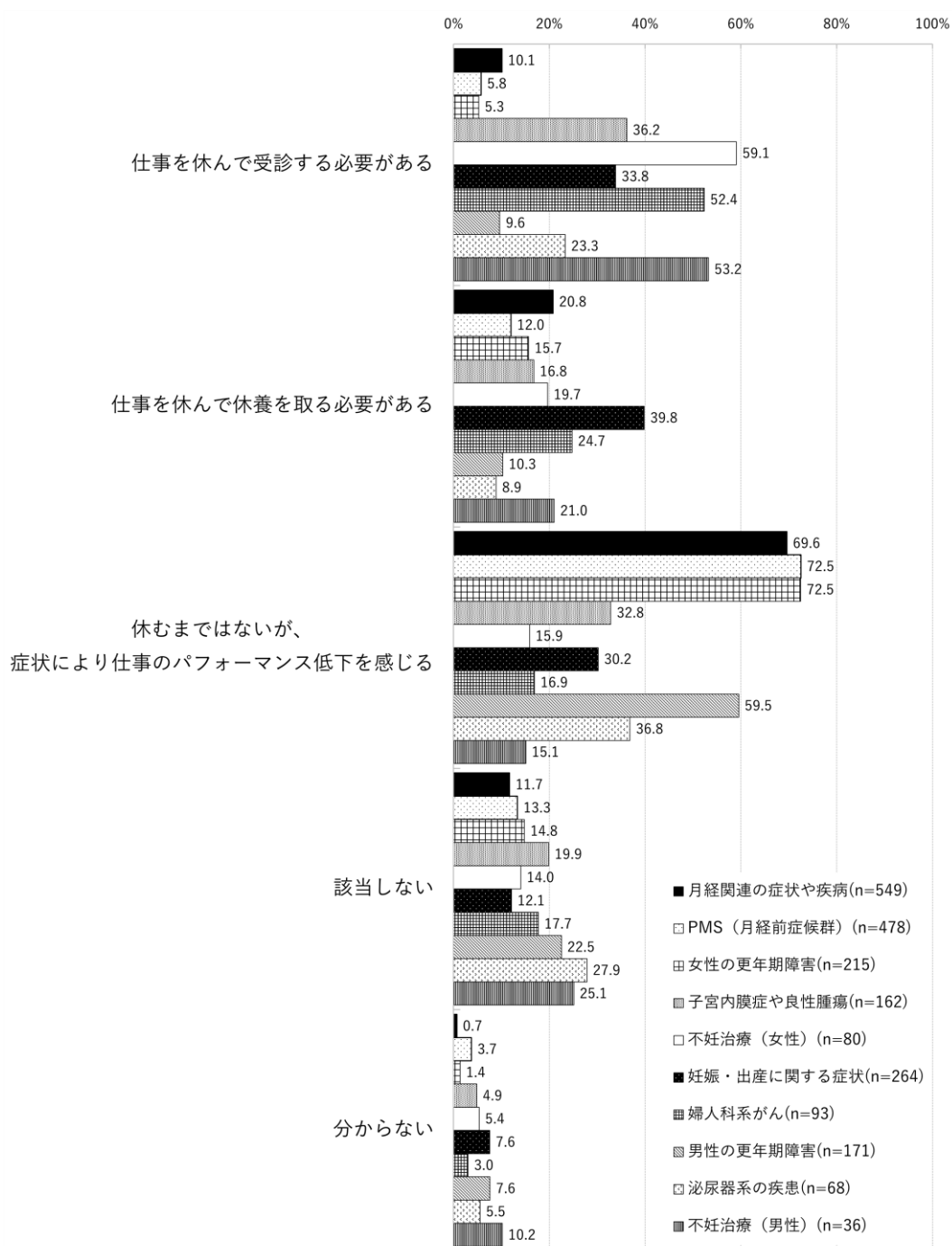
(4) 女性・男性特有の健康課題の仕事への影響

Q17/19. その痛みや症状が著しい場合、仕事にどのような影響がありますか。

女性・男性特有の健康課題について、痛みや症状が著しい場合の仕事への影響について聞いたところ、「仕事を休んで受診する必要がある」との回答が、「不妊治療（女性）」で59.1%、「不妊治療（男性）」で53.2%、「婦人科系がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がん等）」で52.4%となっている。

また、「休むまではないが、症状により仕事のパフォーマンス低下を感じる」との回答が、「PMS（月経前症候群）」で72.5%、「女性の更年期障害（のぼせ、ほてり、多汗等）」で72.5%、「月経関連の症状や疾病（月経不順・月経痛等）」で69.6%、「男性の更年期障害（関節・筋肉痛、ほてりや発汗、疲労感等）」で59.5%となっている。

図表 II-8 女性・男性特有の健康課題の仕事への影響



※「無回答」は掲載しない

(5) 女性・男性特有の健康課題による痛みや症状がある時の仕事の出来

Q20. 痛みや症状がないときの仕事の出来を100%としたとして、痛みや症状がある時のご自身の仕事の出来を評価してください。

女性・男性特有の健康課題による痛みや症状がある時の仕事の出来について聞いたところ、最も数値が低い症状は「婦人科系がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がん等）」で、43.9%となっている。次いで、「妊娠・出産に関する症状（つわり・流産・早産・死産・産後うつ等）」が49.4%、「子宮内膜症や良性腫瘍（卵巣のう腫、子宮筋腫等）」が50.0%となっている。

図表 II-9 女性・男性特有の健康課題による痛みや症状がある時の仕事の出来

	n数	平均
月経関連の症状や疾病	(485)	59.1
PMS	(397)	59.4
更年期障害	(182)	59.2
子宮内膜症や良性腫瘍	(121)	50.0
不妊治療	(65)	53.1
妊娠・出産に関する症状	(215)	49.4
婦人科系がん	(74)	43.9
男性の更年期障害	(124)	63.6
泌尿器系の疾患	(45)	60.0

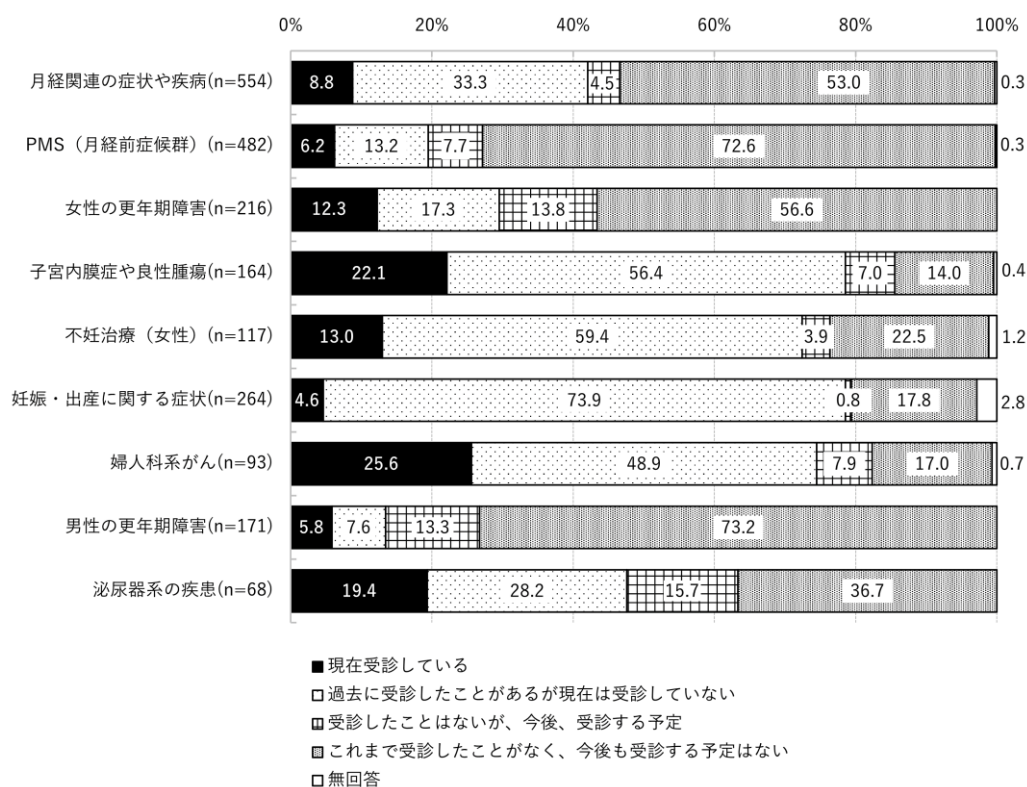
(6) 女性・男性特有の健康課題による症状の受診状況

Q21. 症状について、病院を受診している（する予定）がありますか。

女性・男性特有の健康課題による症状に関して、病院の受診状況について聞いたところ、「現在受診している」との回答割合が高い症状は、「婦人科系がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がん等）」で25.6%、「子宮内膜症や良性腫瘍（卵巣のう腫、子宮筋腫等）」で22.1%となっている一方、その他の症状では20%未満という結果となっている。

また、「これまで受診したことがなく、今後も受診する予定はない」との回答割合が高い症状は、「男性の更年期障害（関節・筋肉痛、ほてりや発汗、疲労感等）」で73.2%、「PMS（月経前症候群）」で72.6%、「女性の更年期障害（のぼせ、ほてり、多汗等）」で56.6%、「月経関連の症状や疾病（月経不順・月経痛等）」で53.0%となっている。

図表 II-10 女性・男性特有の健康課題による症状の受診状況

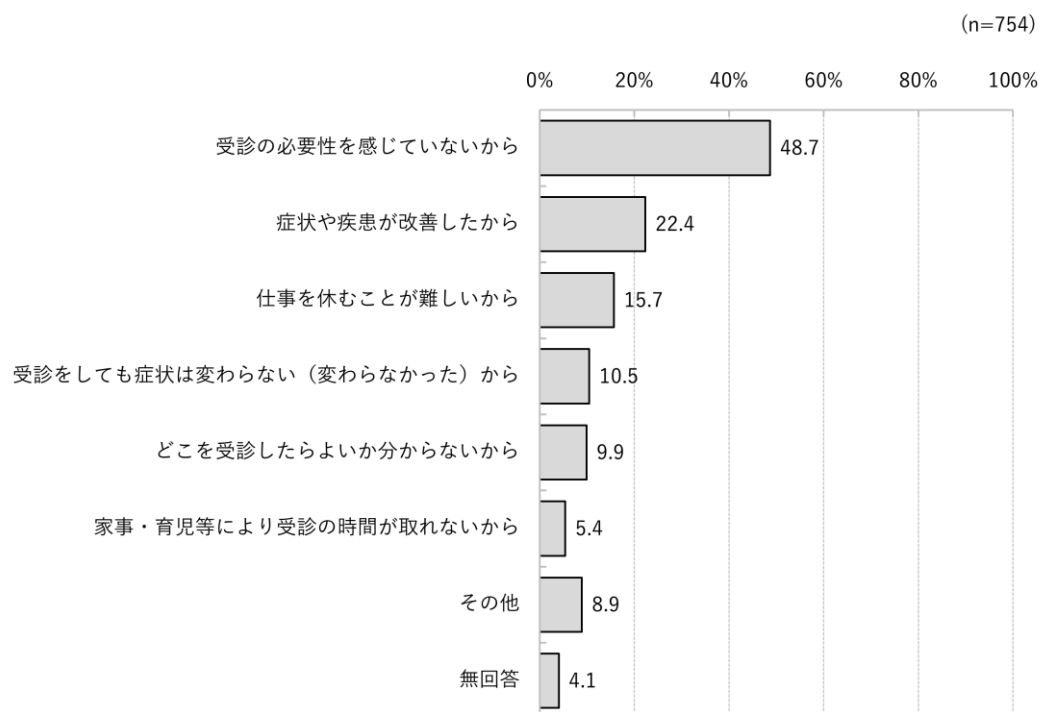


(7) 受診していない理由

Q22. 現在受診していない理由を、差支えのない範囲で教えてください。

病院を受診していない理由は、「受診の必要性を感じていないから」が最も高く、48.7%となっている。次いで「症状や疾患が改善したから」が 22.4%、「仕事を休むことが難しいから」が 15.7%となっている。

図表 II-11 受診していない理由
(複数回答)



3. 女性・男性特有の健康課題とキャリア

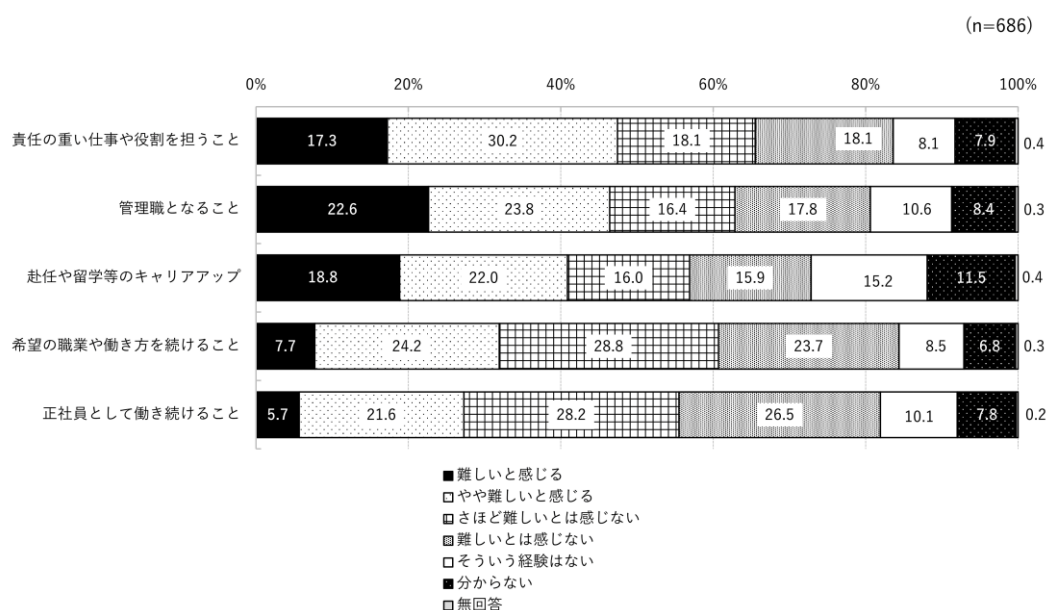
(1) 健康課題の症状を抱えることで難しさを感じること

Q23. Q16・18 でお答えいただいた痛みや症状があることで、以下の困り事や難しさを感じることはありますか。

女性・男性特有の健康課題の痛みや症状がある人に対し、仕事やキャリアについて難しさを感じることを聞いたところ、「難しいと感じる」との回答が最も高い項目は「管理職となること」で22.6%、「やや難しいと感じる」との回答が最も高い項目は「責任の重い仕事や役割を担うこと」で30.2%となっている。

また「難しいと感じる」と「やや難しいと感じる」を合わせると、「責任の重い仕事や役割を担うこと」で47.5%、「管理職となること」で46.4%、「赴任や留学等のキャリアアップ」で40.9%となり、どの項目も「さほど難しいとは感じない」と「難しいとは感じない」を合わせた割合よりも高くなっている。

図表 II-12 健康課題の症状を抱えることで難しさを感じること



男女別にみると、女性は全ての項目において男性よりも「難しいと感じる」、「やや難しいと感じる」の割合が高くなっている。

また、「難しいと感じる」、「やや難しいと感じる」の割合が高いのは、男女ともに「責任の重い仕事や役割を担うこと」（女性 48.5%、男性 43.0%）、「管理職となること」（女性 47.5%、男性 42.1%）となっている。

図表 II-13 健康課題の症状を抱えることで難しさを感じること（男女別）

単位：(%)

		n 数	難 し い と 感 じ る	や や 難 し い と 感 じ る	さ ほ ど 難 し い と は 感 じ な い	難 し い と は 感 じ な い	そ う い う 経 験 は な い	分 か ら な い	無 回 答
責任の重い仕事や役割を担うこと	全体	(686)	17.3	30.2	18.1	18.1	8.1	7.9	0.4
	女性	(554)	17.3	31.2	16.4	17.4	8.5	8.9	0.3
	男性	(132)	17.2	25.8	25.1	20.9	6.4	3.8	0.8
管理職となること	全体	(686)	22.6	23.8	16.4	17.8	10.6	8.4	0.3
	女性	(554)	24.7	22.8	15.2	16.0	11.6	9.5	0.2
	男性	(132)	14.1	28.0	21.6	25.3	6.7	3.6	0.8
赴任や留学等のキャリアアップ	全体	(686)	18.8	22.0	16.0	15.9	15.2	11.5	0.4
	女性	(554)	19.5	22.1	16.6	15.5	14.8	11.2	0.3
	男性	(132)	15.9	21.9	13.8	17.8	17.0	12.8	0.8
希望の職業や働き方を続けること	全体	(686)	7.7	24.2	28.8	23.7	8.5	6.8	0.3
	女性	(554)	8.3	25.1	27.5	22.7	8.6	7.5	0.2
	男性	(132)	5.1	20.4	33.8	27.8	8.1	4.1	0.8
正社員として働き続けること	全体	(686)	5.7	21.6	28.2	26.5	10.1	7.8	0.2
	女性	(554)	6.2	22.0	26.7	26.7	9.4	8.7	0.1
	男性	(132)	3.3	19.8	34.4	25.4	12.6	3.6	0.8

症状別にみると、不妊治療（女性）の有症状者（「感じる（感じたことがある）」と「ときどき感じる（ときどき感じたことがある）」と回答した人の合計）において、「責任の重い仕事や役割を担うこと」を「難しいと感じる」との回答が27.9%、「赴任や留学等のキャリアアップ」を「難しいと感じる」との回答が31.0%と、全体平均と比べて高い結果となっている。

また、婦人科系がんの有症状者（「感じる（感じたことがある）」と「ときどき感じる（ときどき感じたことがある）」と回答した人の合計）においては、「管理職となること」を「難しいと感じる」との回答が42.4%、「赴任や留学等のキャリアアップ」を「難しいと感じる」との回答が33.3%と、全体平均と比べて高い結果となっている。

図表 II-14 健康課題の症状を抱えることで難しさを感じること（症状別）

単位：(%)

	n 数	感 難 じ し る い と	る い や と や 感 難 じ し	感 し さ い ほ と ど は 難 い	は 難 し い な と	い 経 験 は い な う	い 分 か ら な	無 回 答	
責 任 の 重 い 仕 事 や 担 う こ と	全体	(686)	17.3	30.2	18.1	18.1	8.1	7.9	0.4
	月経関連の症状や疾病	(515)	17.2	31.8	16.6	17.7	7.9	8.4	0.3
	PMS（月経前症候群）	(453)	19.1	32.4	16.3	16.0	7.3	8.5	0.3
	女性の更年期障害	(208)	18.3	37.9	14.1	13.0	7.7	8.8	0.2
	子宮内膜症や良性腫瘍	(158)	18.7	38.0	15.4	13.9	4.6	9.1	0.3
	不妊治療（女性）	(78)	27.9	38.8	8.6	15.3	2.9	6.4	0.0
	妊娠・出産に関する症状	(250)	20.2	36.4	14.0	11.9	7.1	10.4	0.0
	婦人科系がん	(91)	23.7	44.1	10.9	8.5	2.4	10.3	0.0
	男性の更年期障害	(124)	17.3	26.8	25.4	20.9	6.0	2.7	0.9
	泌尿器系の疾患	(55)	23.8	20.1	25.1	18.1	8.0	4.9	0.0
不妊治療（男性）	(18)	29.0	28.3	27.7	0.0	15.0	0.0	0.0	
管 理 職 と な る こ と	全体	(686)	22.6	23.8	16.4	17.8	10.6	8.4	0.3
	月経関連の症状や疾病	(515)	24.7	23.2	15.3	16.4	10.9	9.3	0.2
	PMS（月経前症候群）	(453)	26.7	24.2	15.0	14.8	10.1	9.0	0.3
	女性の更年期障害	(208)	29.8	25.6	13.5	11.9	12.5	6.7	0.0
	子宮内膜症や良性腫瘍	(158)	31.0	23.7	15.4	12.7	6.7	10.6	0.0
	不妊治療（女性）	(78)	33.6	30.4	10.6	13.7	3.7	8.0	0.0
	妊娠・出産に関する症状	(250)	30.6	23.8	14.0	11.1	9.4	11.0	0.0
	婦人科系がん	(91)	42.4	26.1	8.3	7.8	6.5	8.9	0.0
	男性の更年期障害	(124)	13.9	29.1	21.7	25.6	6.3	2.5	0.9
	泌尿器系の疾患	(55)	15.1	19.4	30.8	23.0	5.0	6.7	0.0
不妊治療（男性）	(18)	23.5	22.8	38.8	0.0	15.0	0.0	0.0	
キ 赴 任 や ア 留 学 等 の プ ロ グ ラ ム	全体	(686)	18.8	22.0	16.0	15.9	15.2	11.5	0.4
	月経関連の症状や疾病	(515)	19.3	22.8	16.6	15.5	14.7	10.6	0.3
	PMS（月経前症候群）	(453)	20.4	24.9	17.1	14.1	13.6	9.7	0.4
	女性の更年期障害	(208)	25.8	26.1	14.1	9.8	12.9	11.0	0.3
	子宮内膜症や良性腫瘍	(158)	25.0	28.6	14.9	9.0	10.2	12.0	0.3
	不妊治療（女性）	(78)	31.0	31.3	8.6	13.4	6.1	8.9	0.7
	妊娠・出産に関する症状	(250)	27.6	25.1	13.5	8.7	13.9	11.3	0.0
	婦人科系がん	(91)	33.3	29.4	12.8	8.1	6.0	10.4	0.0
	男性の更年期障害	(124)	16.2	22.3	14.8	19.0	15.9	11.0	0.9
	泌尿器系の疾患	(55)	23.4	11.9	22.0	10.7	14.7	17.3	0.0
不妊治療（男性）	(18)	29.3	22.5	33.2	0.0	15.0	0.0	0.0	
希 望 の 職 業 や 働 き を 続 け る こ と	全体	(686)	7.7	24.2	28.8	23.7	8.5	6.8	0.3
	月経関連の症状や疾病	(515)	8.8	25.9	27.3	23.0	8.0	6.8	0.2
	PMS（月経前症候群）	(453)	9.5	28.0	26.8	20.4	7.4	7.6	0.3
	女性の更年期障害	(208)	7.6	30.0	27.9	18.2	5.5	10.8	0.0
	子宮内膜症や良性腫瘍	(158)	9.6	32.9	29.1	13.8	4.2	10.0	0.4
	不妊治療（女性）	(78)	13.9	37.5	25.0	17.5	2.3	3.9	0.0
	妊娠・出産に関する症状	(250)	10.4	29.0	27.8	16.2	6.9	9.3	0.3
	婦人科系がん	(91)	8.4	49.3	17.9	10.5	1.5	12.4	0.0
	男性の更年期障害	(124)	4.6	21.8	33.4	28.6	7.7	3.0	0.9
	泌尿器系の疾患	(55)	6.1	21.2	41.1	14.8	11.9	4.9	0.0
不妊治療（男性）	(18)	7.2	31.6	40.4	5.8	15.0	0.0	0.0	
正 社 員 と し て 働 き を 続 け る こ と	全体	(686)	5.7	21.6	28.2	26.5	10.1	7.8	0.2
	月経関連の症状や疾病	(515)	6.3	23.0	26.9	27.2	7.8	8.7	0.1
	PMS（月経前症候群）	(453)	6.8	25.0	27.1	25.6	6.2	9.2	0.1
	女性の更年期障害	(208)	8.3	26.6	23.1	21.3	9.2	11.5	0.0
	子宮内膜症や良性腫瘍	(158)	8.4	30.2	24.6	19.1	8.0	9.7	0.0
	不妊治療（女性）	(78)	12.6	33.3	17.9	20.7	7.1	8.4	0.0
	妊娠・出産に関する症状	(250)	8.5	27.4	24.9	19.5	7.3	12.3	0.0
	婦人科系がん	(91)	9.7	37.3	21.5	14.0	5.7	11.7	0.0
	男性の更年期障害	(124)	3.6	21.1	32.2	27.1	11.3	3.8	0.9
	泌尿器系の疾患	(55)	4.2	24.2	42.3	10.5	18.7	0.0	0.0
不妊治療（男性）	(18)	7.2	41.0	36.8	0.0	15.0	0.0	0.0	

※表側は各症状における「感じる（感じたことがある）」と「ときどき感じる（ときどき感じたことがある）」の合算値

※集計表の黒塗部分は、全体平均より10ポイント以上高い、もしくは低い回答を示す

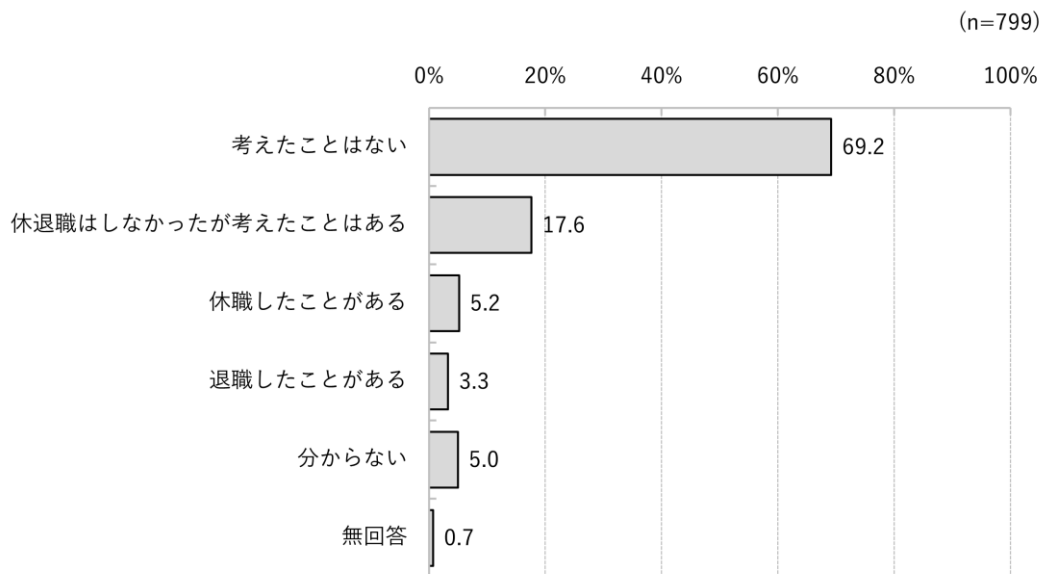
(2) 健康課題の症状と休職・退職の状況

Q24. Q16・18でお答えいただいた痛みや症状があることで、休職や退職を考えたことはありますか。

女性・男性特有の健康課題の痛みや症状がある人に対し、休職や退職を考えたことがあるか聞いたところ、「考えたことはない」との回答が最も高く、69.2%となっている。次いで「休退職はしなかったが考えたことはある」との回答が17.6%となっている。

また、「休職したことがある」と「退職したことがある」を合わせると、健康課題の症状によって休職・退職したことがある人の割合は8.5%となっている。

図表 II-15 健康課題の症状の休職・退職への影響
(複数回答)



男女別にみると、男女いずれも「考えたことはない」との回答が最も多く、女性で66.0%、男性で78.7%となっている。次いで「休退職はしなかったが考えたことはある」との回答が、女性で18.9%、男性で13.7%となっている。

図表 II-16 健康課題の症状の休職・退職への影響（複数回答/男女別）

単位：(%)

	n 数	休 職 し た こ と が あ る	退 職 し た こ と が あ る	考 え 退 職 し な か つ た が	考 え た こ と は あ り ま せ ん	分 か ら な い	無 回 答
全体	(799)	5.2	3.3	17.6	69.2	5.0	0.7
女性	(601)	5.7	4.2	18.9	66.0	5.1	0.7
男性	(198)	3.6	0.5	13.7	78.7	4.7	0.8

症状別にみると、各症状のいずれにおいても「考えたことはない」との回答が最も多いが、「女性の更年期障害（のぼせ、ほてり、多汗等）」（54.9%）、「子宮内膜症や良性腫瘍（卵巣のう腫、子宮筋腫等）」（53.1%）、「不妊治療（女性）」（51.1%）、「妊娠・出産に関する症状（つわり・流産・早産・死産・産後うつ等）」（54.5%）、「婦人科系がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がん等）」（43.4%）については、全体平均と比べて10ポイント以上低い結果となっている。

また、「休退職はしなかったが考えたことはある」については、「婦人科系がん（子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、乳がん等）」で30.5%と、全体平均と比べて高い結果となっている。

図表 II-17 健康課題の症状の休職・退職への影響（複数回答/症状別）

単位：(%)

	n 数	休 職 し た こ と が あ る	退 職 し た こ と が あ る	考 え 退 職 し た こ と は あ ら な か つ た が	考 え た こ と は あ ら な い	分 か ら な い	無 回 答
全体	(799)	5.2	3.3	17.6	69.2	5.0	0.7
月経関連の症状や疾病	(554)	6.0	4.3	19.3	66.0	4.6	0.5
PMS（月経前症候群）	(482)	5.8	4.5	20.8	64.1	4.9	0.6
女性の更年期障害	(216)	6.4	7.8	26.0	54.9	4.9	0.9
子宮内膜症や良性腫瘍	(164)	7.6	7.9	27.6	53.1	2.8	1.2
不妊治療（女性）	(81)	9.7	10.5	28.4	51.1	2.7	0.0
妊娠・出産に関する症状	(264)	9.8	8.1	18.9	54.5	8.9	0.5
婦人科系がん	(93)	12.3	7.9	30.5	43.4	5.6	0.7
男性の更年期障害	(171)	4.2	0.6	15.8	75.4	5.4	1.0
泌尿器系の疾患	(68)	6.0	0.0	17.2	73.8	4.6	0.0
不妊治療（男性）	(36)	3.6	0.0	11.5	79.2	5.7	0.0

※表側は各症状における「感じる（感じたことがある）」と「ときどき感じる（ときどき感じたことがある）」の合算値

4. 部下の健康課題とマネジメントにおける課題

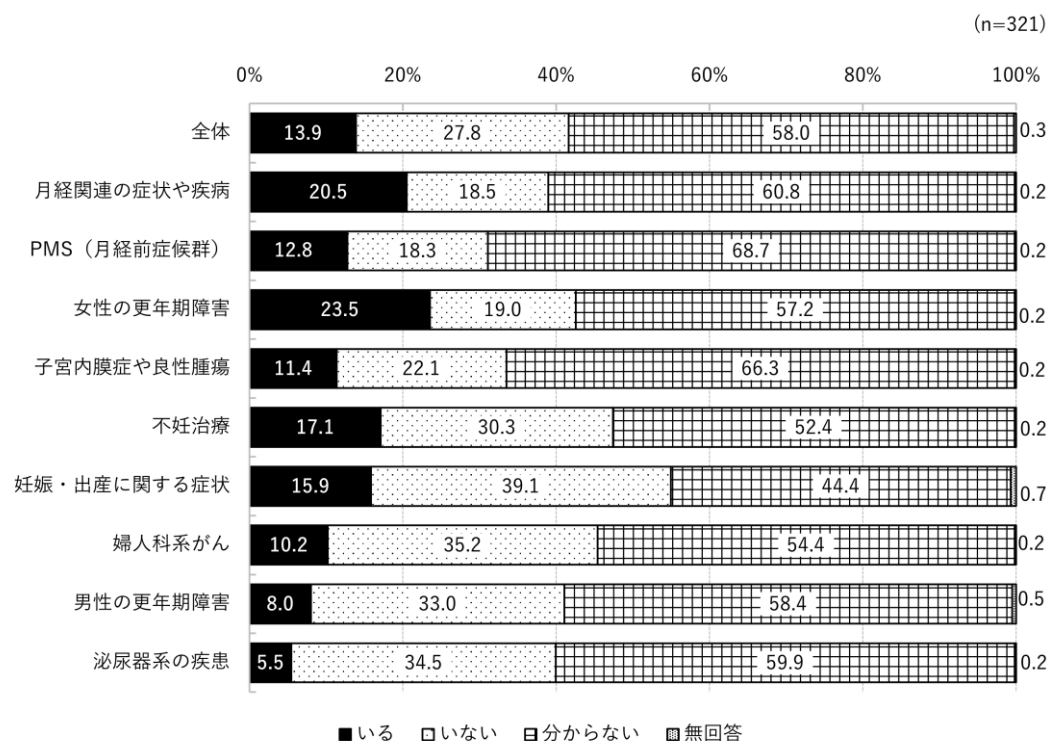
(1) 女性・男性特有の健康課題を抱える部下の把握

Q26. あなたの部下の中に、以下に挙げている痛みや症状を感じたり、それにより勤務先で困っていたりする人はいますか。

役職が「管理職（課長級以上）」と「経営者・役員」の人に対して、女性・男性特有の健康課題による痛みや症状を感じたり、それにより勤務先で困っていたりする部下がいるかどうか聞いたところ、全体的な傾向としては「分からない」との回答が最も高く、58.0%となっている。症状別にみると、「分からない」との回答が最も高いのは「PMS（月経前症候群）」で68.7%となっている。次いで「子宮内膜症や良性腫瘍（卵巣のう腫、子宮筋腫等）」が66.3%、「月経関連の症状や疾病（月経不順・月経痛等）」が60.8%、という順となっている。

また、「分からない」の回答が最も低いのは「妊娠・出産に関する症状（つわり・流産・早産・死産・産後うつ等）」で、44.4%となっている。

図表 II-18 女性・男性特有の健康課題を抱える部下の把握



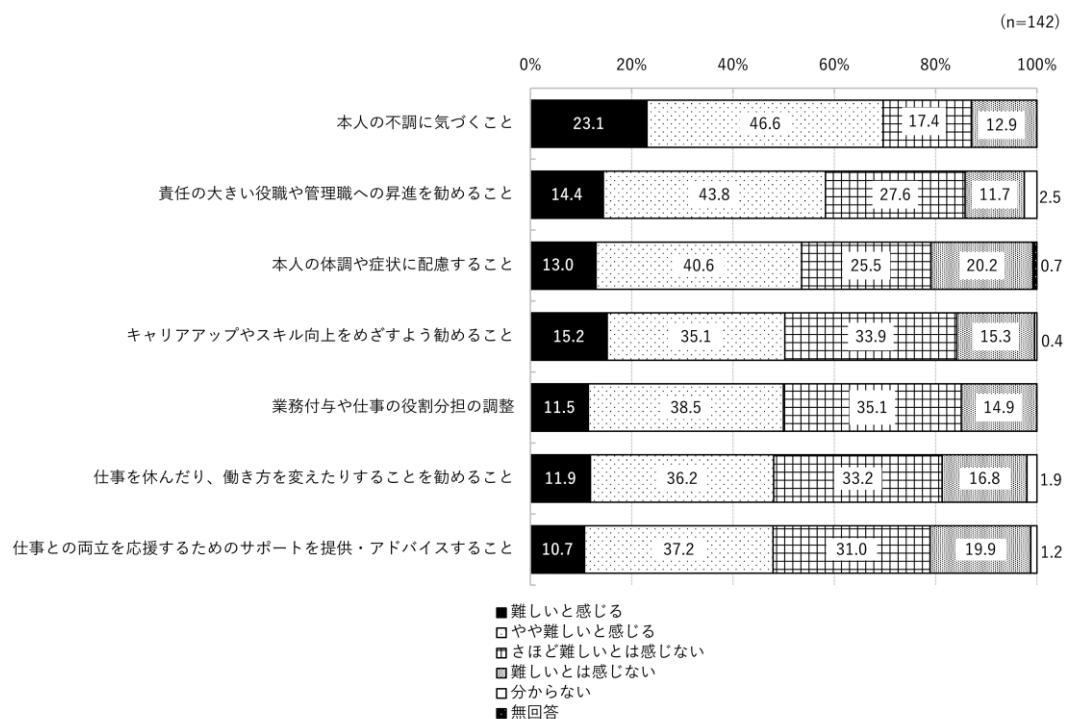
(2) 健康課題を抱える部下対応に感じる難しさ

Q27. 症状を抱えている部下への対応として、以下に難しさを感じたことはありますか。

役職が「管理職（課長級以上）」と「経営者・役員」の人に対して、女性・男性特有の健康課題の症状を抱えている部下対応に感じる難しさを聞いたところ、「難しいと感じる」と「やや難しいと感じる」のいずれにおいても、回答が最も高い項目は「本人の不調に気づくこと」で、それぞれ23.1%、46.6%となっている。合わせて69.7%の人が、部下の不調に気づくことに難しさを感じている。

また「難しいと感じる」と「やや難しいと感じる」を合わせると、「責任の大きい役職や管理職への昇進を勧めること」が58.3%、「本人の体調や症状に配慮すること」が53.6%、「キャリアアップやスキル向上をめざすよう勧めること」が50.3%となり、これらの項目は「さほど難しいとは感じない」と「難しいとは感じない」を合わせた割合よりも高くなっている。

図表 II-19 健康課題を抱える部下対応に感じる難しさ



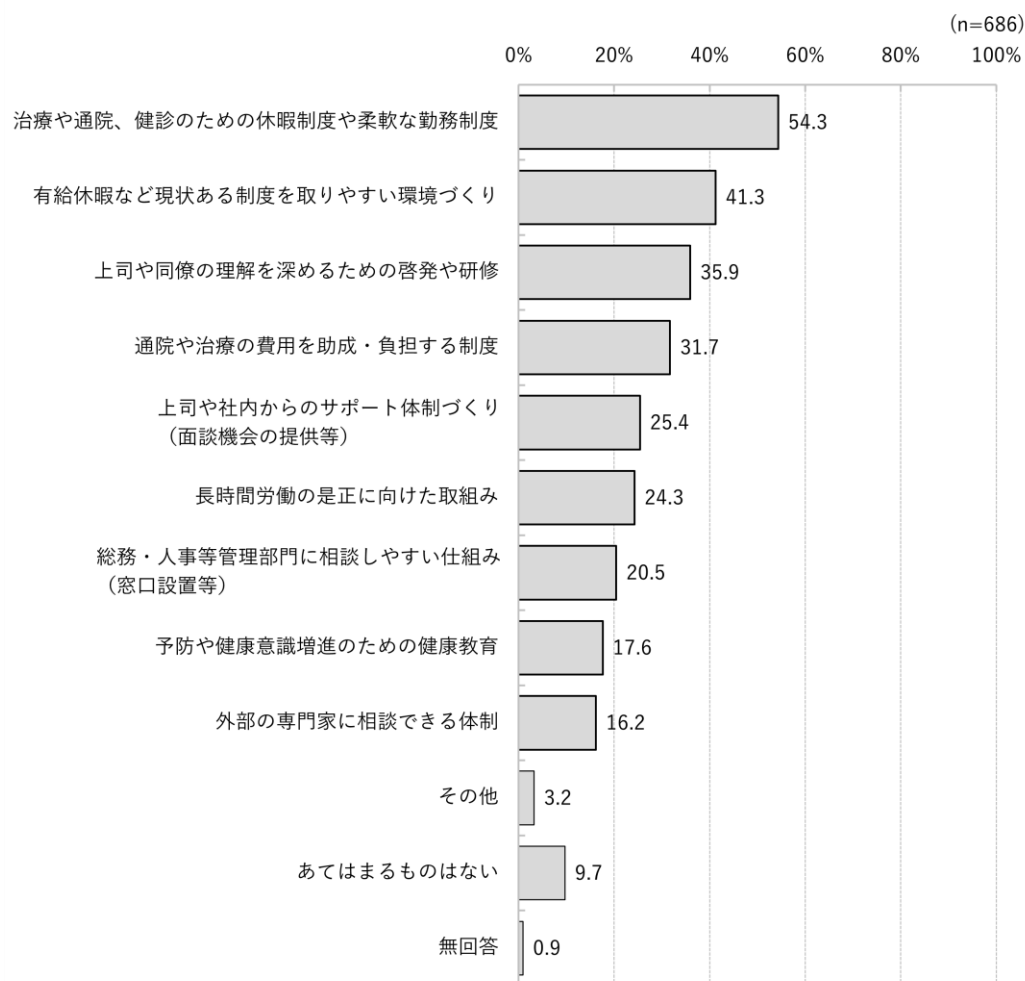
5. 職場に求める支援

(1) 自身が症状を抱える際に、勤務先に必要と感じる支援

Q25. Q16・18 でお答えいただいた痛みや症状があるときに、勤務先で必要と感じた、あればよかったと思う支援はどのようなものですか。

女性・男性特有の健康課題の痛みや症状があるときに、勤務先に必要と感じた支援について聞いたところ、「治療や通院、健診のための休暇制度や柔軟な勤務制度」が最も高く、54.3%となっている。次いで「有給休暇など現状ある制度を取りやすい環境づくり」が41.3%、「上司や同僚の理解を深めるための啓発や研修」が35.9%となっている。

図表 II-20 自身が症状を抱える際に、勤務先に必要と感じる支援
(複数回答)

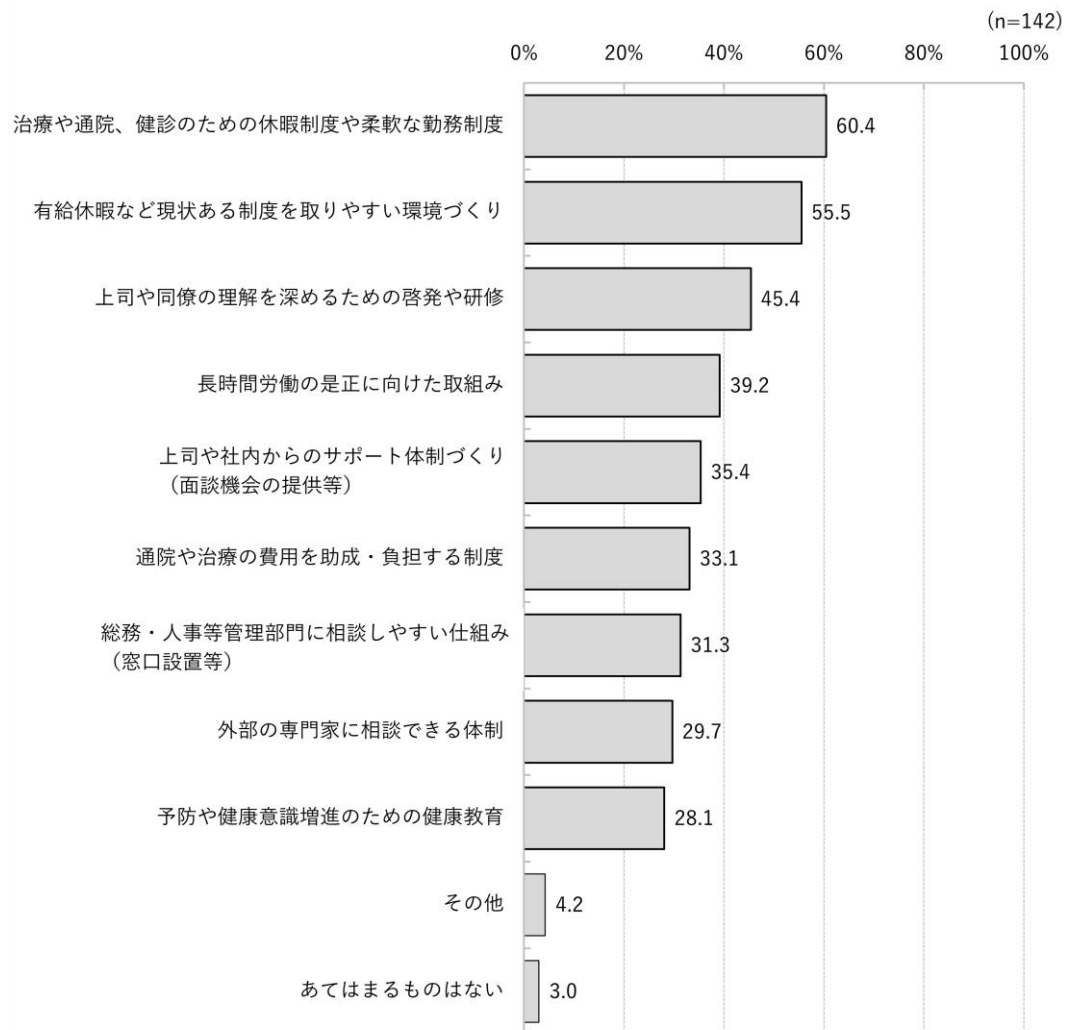


(2) 症状を抱える部下対応の際に、勤務先に必要と感じる支援

Q28. 症状を抱えている部下対応の際に、勤務先で必要と感じる、あればよいと思う支援はどのようなものですか。

役職が「管理職（課長級以上）」と「経営者・役員」の人に対して、女性・男性特有の健康課題の症状を抱えている部下対応の際に、勤務先に必要と感じる支援について聞いたところ、「治療や通院、健診のための休暇制度や柔軟な勤務制度」が最も高く、60.4%となっている。次いで「有給休暇など現状ある制度を取りやすい環境づくり」が55.5%、「上司や同僚の理解を深めるための啓発や研修」が45.4%となっている。

図表 II-21 症状を抱える部下対応の際に、勤務先に必要と感じる支援
(複数回答)



Ⅲ. 不妊治療と仕事の両立に関する実態

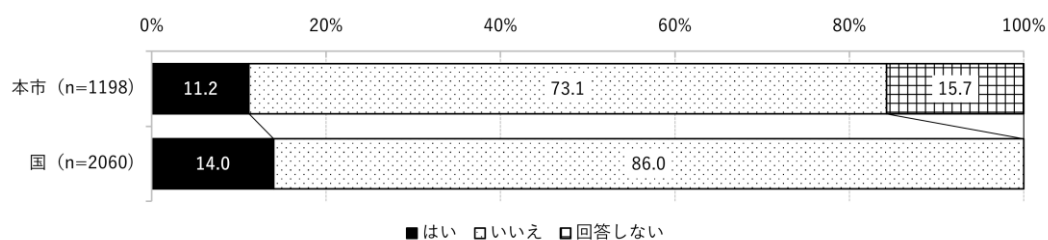
1. 当事者の実態

(1) 不妊治療経験及び予定者の割合

Q29. あなたは不妊治療をしたことがありますか。ある方は直近で行った時期を教えてください。また、ない方は、近い将来不妊治療を予定していますか。

不妊治療経験及び予定があるかを聞いたところ、不妊治療をしたことがある、または近い将来予定をしているとの回答は11.2%となっている。国の調査結果と比較すると、不妊治療経験及び予定がある人の割合は、本市の方が2.8ポイント低い。

図表Ⅲ-1 不妊治療経験及び予定者の割合



※国：厚生労働省「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査研究事業」

(2) 不妊治療と仕事との両立状況

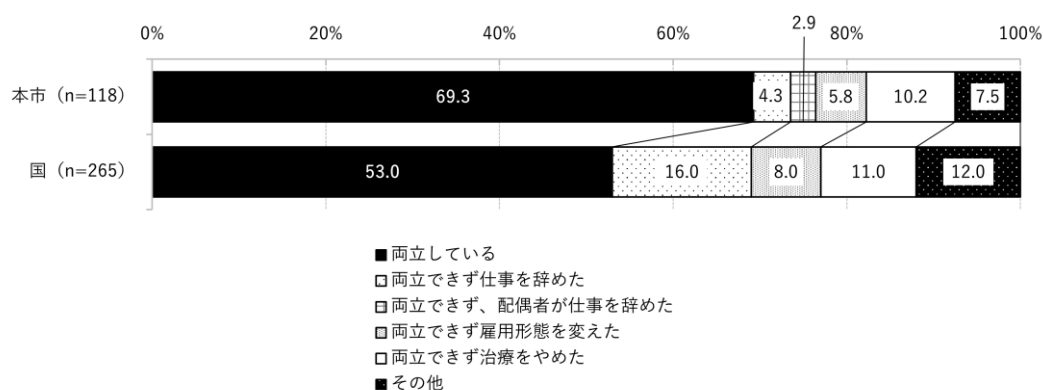
Q30. 治療と仕事の両立をしていますか。または、過去にしていたか。

不妊治療経験者に対し、不妊治療と仕事との両立状況について聞いたところ、治療と仕事を「両立している」との割合が最も高く、69.3%となっている。

また、両立できなかった割合を合わせると 23.2%となる。その内訳は、「両立できず仕事を辞めた」が 4.3%、「両立できず配偶者(パートナー)が仕事を辞めた」が 2.9%、「両立できず雇用形態を変えた」が 5.8%、「両立できず治療をやめた」が 10.2%となっている。「両立できず仕事を辞めた」と「両立できず配偶者(パートナー)が仕事を辞めた」を合わせると、不妊治療と仕事を両立できず仕事を辞めた割合は 7.2%となる。

国の調査結果と比較すると、本市は国の結果に比べて、「両立している」の割合が 16.3 ポイント高い。一方、「両立できず仕事を辞めた(配偶者が仕事を辞めた、を含む)」の割合では、本市の方が 8.8 ポイント低い。

図表 III-2 不妊治療と仕事との両立状況



※国：厚生労働省「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査研究事業」

※「両立できず配偶者(パートナー)が仕事を辞めた」の選択肢は国の調査項目に該当なし

男女別にみると、「両立している」と回答した人は、女性で61.6%、男性で79.9%となっている。また、「両立できず雇用形態を変えた」が女性では10.1%となっている。

図表III-3 不妊治療と仕事との両立状況（男女別）

単位：(%)

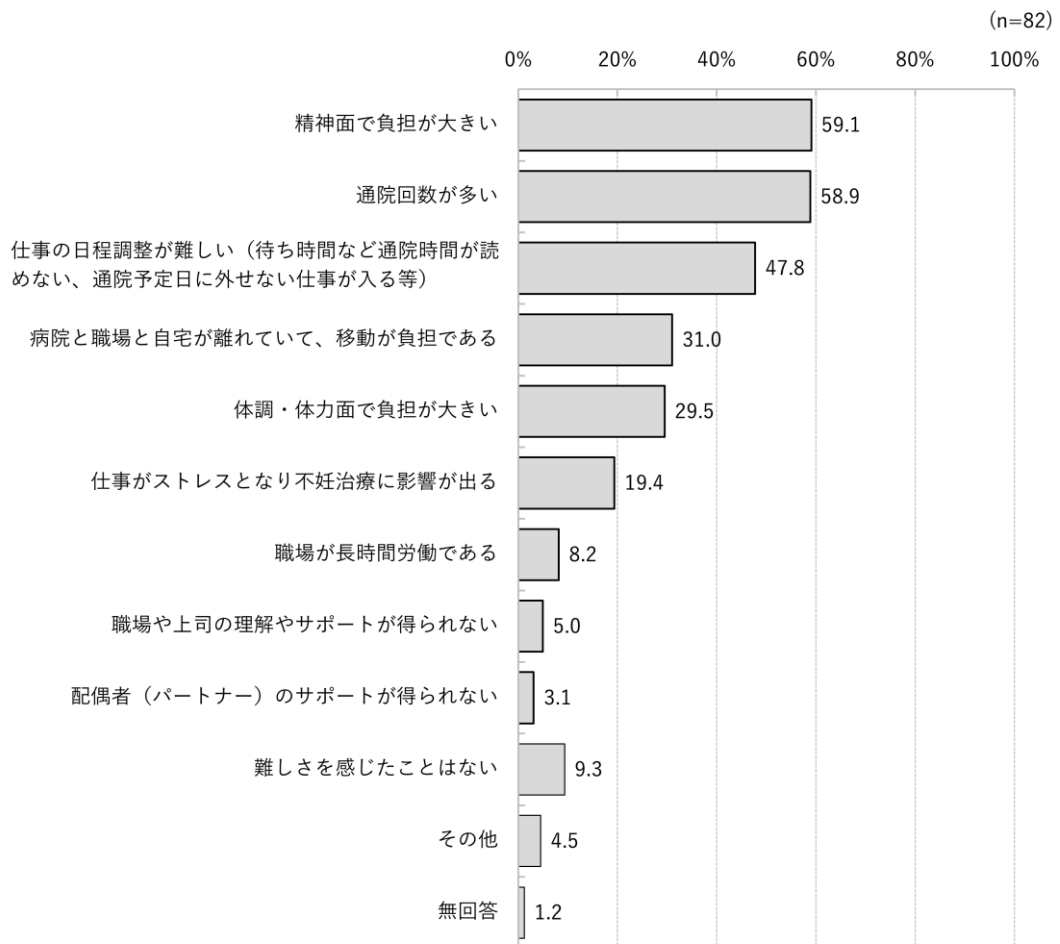
	n 数	両 立 し て い る	を 両 立 し て い る が 辞 め た 事	め 偶 々 が 仕 事 を 辞 め た 事	両 立 し て い る が 辞 め た 事	形 態 を 変 え た 雇 用	を 両 立 し て い る が 辞 め た 事	そ の 他
全体	(118)	69.3	4.3	2.9	5.8	10.2	7.5	
女性	(68)	61.6	7.4	0.0	10.1	10.4	10.6	
男性	(50)	79.9	0.0	6.8	0.0	10.0	3.4	

(3) 不妊治療と仕事との両立で難しさを感じること

Q32. 治療と仕事の両立に関して、以下のような難しさを感じたことはありますか。

不妊治療と仕事を両立している人に対し、不妊治療と仕事との両立で難しさを感じることを聞いたところ、「精神面で負担が大きい」が最も高く、59.1%となっている。次いで、「通院回数が多い」が58.9%、「仕事の日程調整が難しい」が47.8%となっている。「難しさを感じたことはない」との回答は9.3%となっている。

図表 III-4 不妊治療と仕事との両立で難しさを感じること
(複数回答)



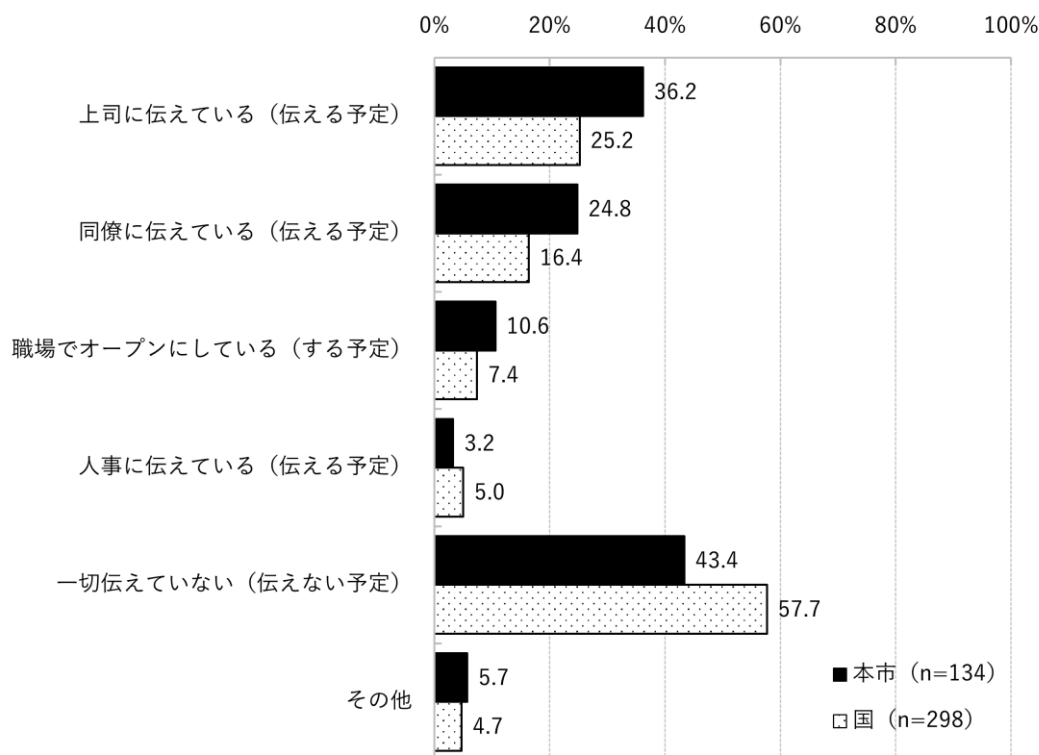
(4) 不妊治療を職場に伝えているか

Q35. 治療をしていることを職場で伝えています（いました）か。
 また、これから不妊治療を予定されている方は、職場に伝える予定はありますか。

不妊治療経験者及び予定者に対し、不妊治療を職場に伝えているか聞いたところ、「一切伝えていない（伝えない予定）」が最も高く、全体の43.4%を占める。次いで、「上司に伝えている（伝える予定）」が36.2%、「同僚に伝えている（伝える予定）」が24.8%となっている。

国の調査結果と比較すると、本市は国の結果に比べて、「一切伝えていない（伝えない予定）」の割合が14.3ポイント低い。

図表III-5 不妊治療を職場に伝えているか
 (複数回答)



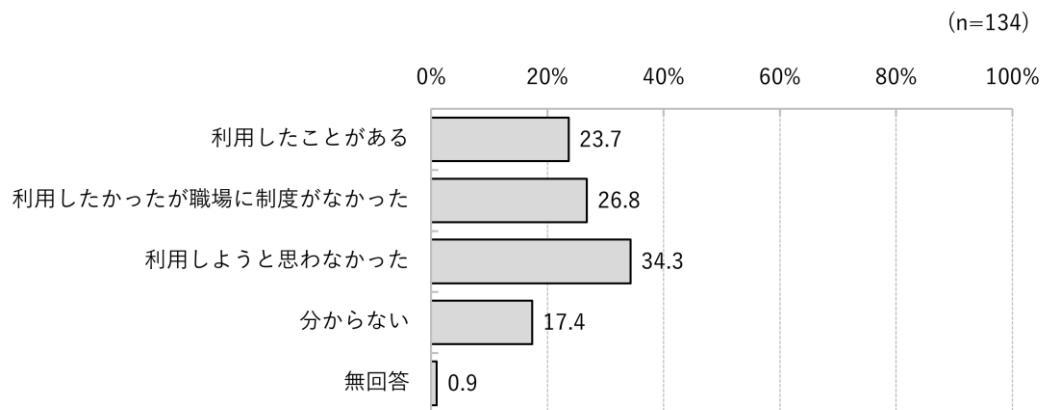
※国：厚生労働省「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査研究事業」

(5) 不妊治療と仕事の両立のための職場制度の利用状況

Q37. 治療と仕事を両立する上で、職場の休暇制度や柔軟な勤務制度を利用したことはありますか。

不妊治療経験者及び予定者に対し、不妊治療と仕事の両立のための職場制度の利用状況を聞いたところ、「利用しようと思わなかった」が最も高く、全体の34.3%を占める。次いで、「利用しなかったが職場に制度がなかった」が26.8%、「利用したことがある」が23.7%となっている。

図表III-6 不妊治療と仕事の両立のための職場制度の利用状況
(複数回答)



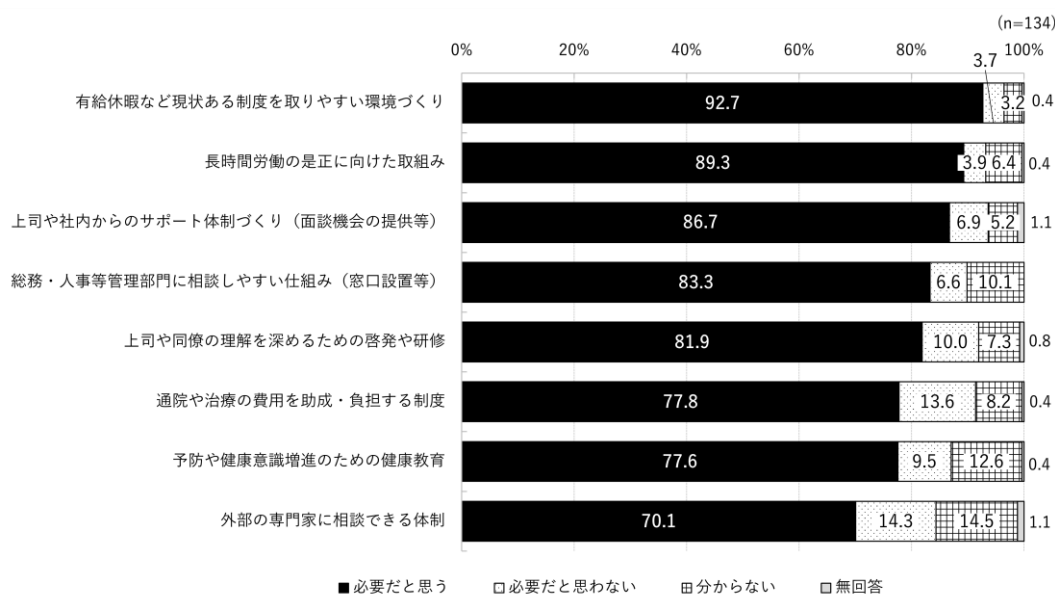
(6) 不妊治療と仕事の両立のために職場に必要だと思う制度やサポート

Q38. 治療と仕事を両立する上で、職場に必要だと思う制度やサポートはありますか。

不妊治療経験者及び予定者に対し、不妊治療と仕事の両立のために職場に必要だと思う制度やサポートを聞いたところ、「必要だと思う」との回答が最も高いのは「有給休暇など現状ある制度を取りやすい環境づくり」で、92.7%となっている。次いで、「長時間労働の是正に向けた取組み」が89.3%、「上司や社内からのサポート体制づくり（面談機会の提供等）」が86.7%となっている。

また、いずれの制度やサポートにおいても、「必要だと思う」との割合が7割を超えている。

図表III-7 不妊治療と仕事の両立のために職場に必要だと思う制度やサポート



2. 非当事者（周囲の従業員）の実態

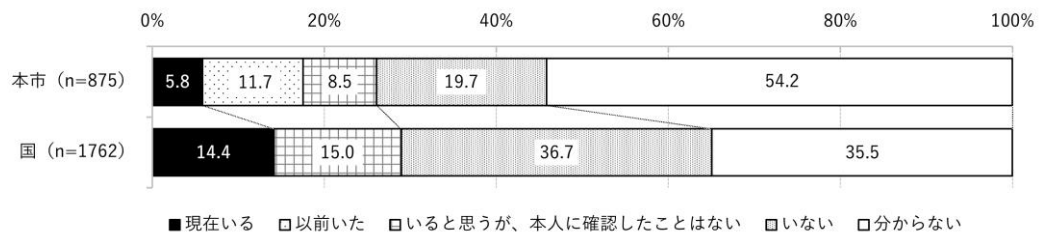
(1) 職場に不妊治療者がいるかどうかの把握状況

Q40. あなたの職場に不妊治療をしている人はいますか。

不妊治療経験及び予定のない人（非当事者）に対し、職場に不妊治療者がいるかどうかを聞いたところ、「分からない」の割合が最も高く、54.2%となっている。次いで、「いない」が19.7%となっている。また、「現在いる」と「以前いた」を合わせると、職場に不妊治療者がいるとの割合は17.5%となっている。

国の調査結果と比較すると、本市は国の結果に比べて、「分からない」の割合が18.7ポイント高い。また、「いない」の割合では、本市の方が17.0ポイント低い。

図表 III-8 職場に不妊治療者がいるかどうかの把握状況



※国：厚生労働省「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査研究事業」

※国の調査の回答形式は複数回答

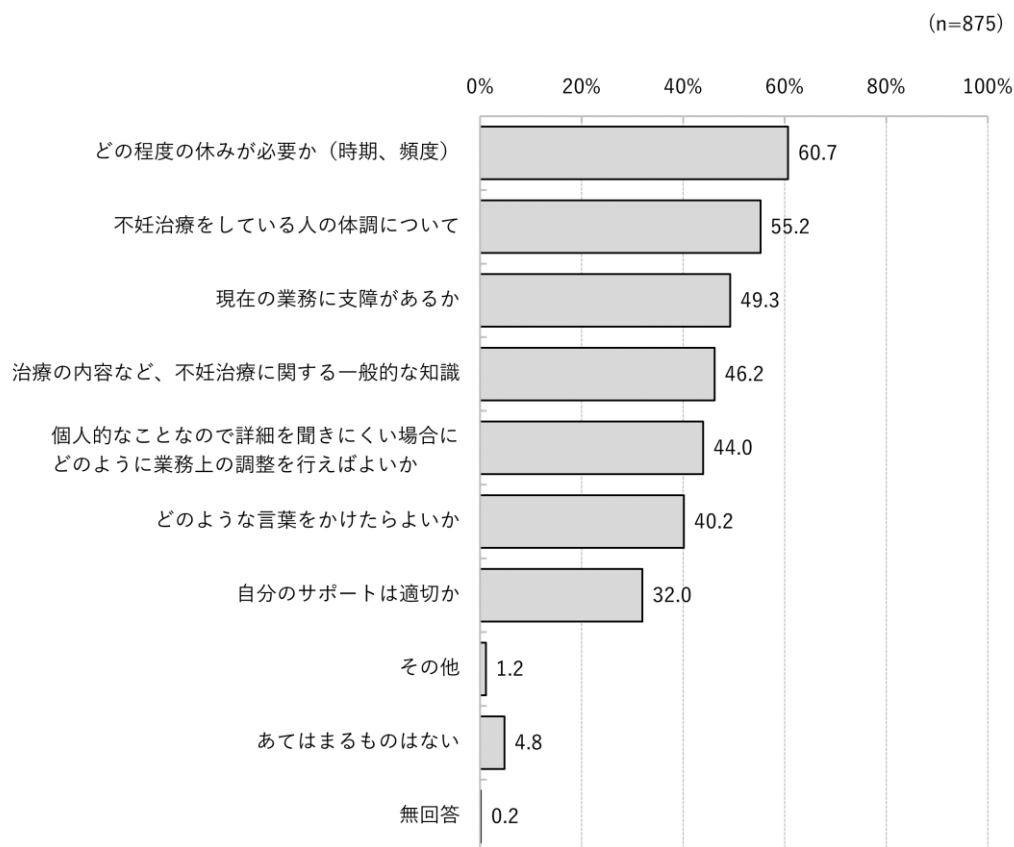
※国の調査の「現在いる」の選択肢は「同僚にいる」「上司にいる」「部下にいる」の合算値、また「以前いた」の選択肢は該当なし

(2) 不妊治療者と一緒に働く上で、どのような情報があれば配慮がしやすいか

Q41. 不妊治療をしている人と一緒に働く上で、どのような情報があれば配慮がしやすいですか。

非当事者に対し、不妊治療者と一緒に働く上で、どのような情報があれば配慮がしやすいか聞いたところ、「どの程度の休みが必要か（時期、頻度）」が最も高く、全体の60.7%を占める。次いで、「不妊治療をしている人の体調について」が55.2%、「現在の業務に支障があるか」が49.3%となっている。

図表III-9 不妊治療者と一緒に働く上でどのような情報があれば配慮がしやすいか
(複数回答)



IV. 健康経営・フェムテック等に対する認識

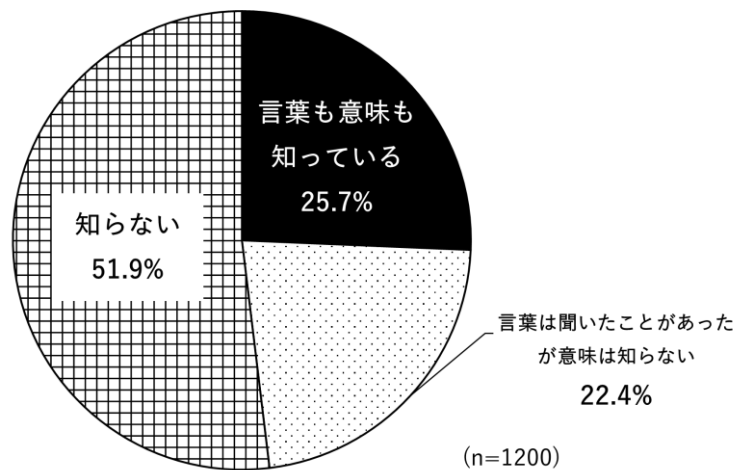
1. 健康経営・フェムテックに関する認知度

(1) 「健康経営」の認知度

Q42. 「健康経営」という言葉を知っていますか。

「健康経営」に関する認知度をみると、「知らない」の割合が最も高く、51.9%となっている。次いで、「言葉も意味も知っている」が25.7%、「言葉は聞いたことがあったが意味は知らない」が22.4%となっている。

図表IV-1 「健康経営」の認知度

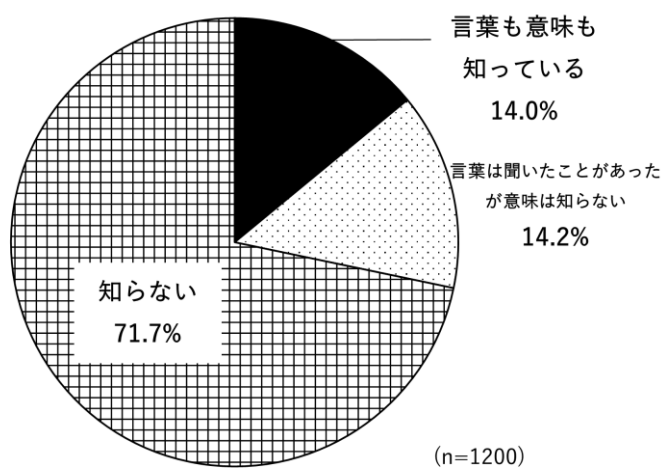


(2)「フェムテック」の認知度

Q43. 「フェムテック」という言葉を知っていますか。

「フェムテック」に関する認知度をみると、「知らない」の割合が最も高く、71.7%。次いで、「言葉は聞いたことがあったが意味は知らない」が14.2%、「言葉も意味も知っている」が14.0%となっている。

図表IV-2 「フェムテック」の認知度



2. フェムテック等に対する利用状況と期待度

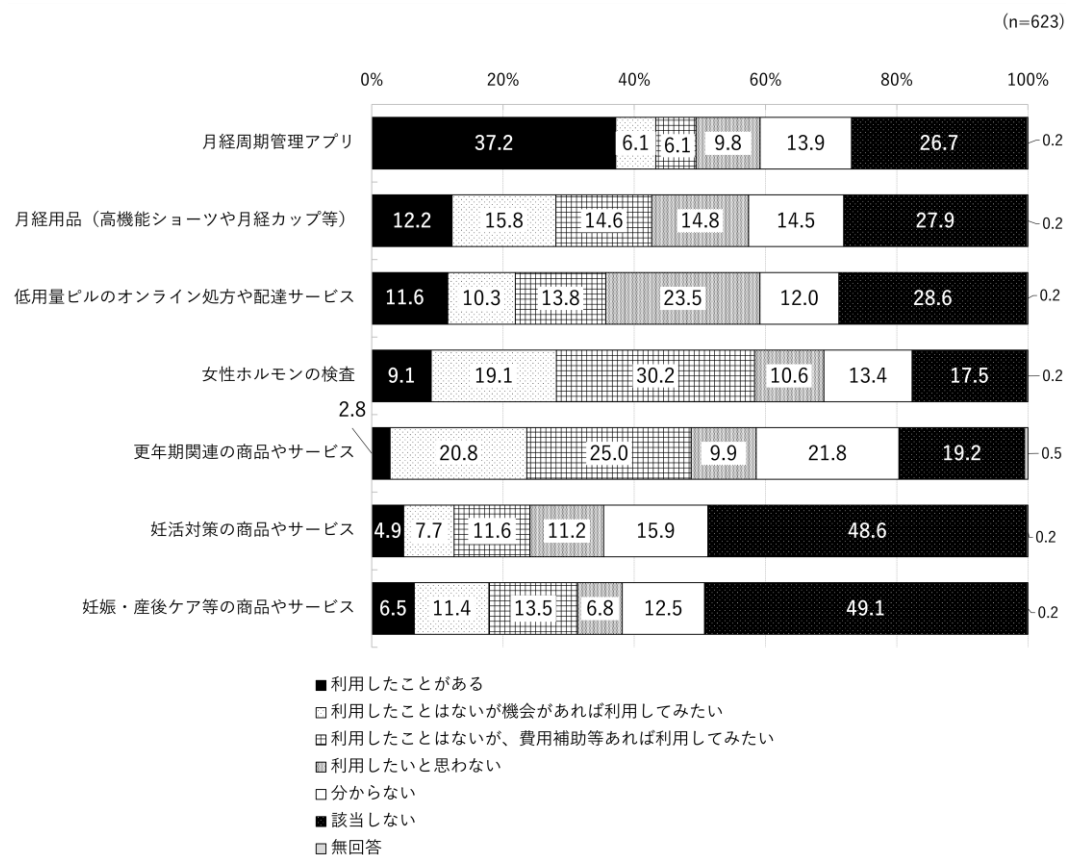
(1) フェムテック各種サービスの利用経験及び利用意向

Q45. 以下のフェムテック関連サービスの利用経験や利用意向を教えてください。

フェムテック各種サービスの利用経験を聞いたところ、「利用したことがある」の割合が最も高いのは「月経周期管理アプリ」で37.2%。次いで、「月経用品（高機能ショーツや月経カップ等）」が12.2%、「低用量ピルのオンライン処方や配達サービス」が11.6%となっている。その他のサービスについては1割未満となっている。

利用意向については、「利用したことはないが機会があれば利用してみたい」の割合が最も高いのが「更年期関連の商品やサービス」で20.8%、「利用したことはないが、費用補助等あれば利用してみたい」の割合が最も高いのは「女性ホルモンの検査」で30.2%となっている。

図表IV-3 フェムテック各種サービスの利用経験及び利用意向

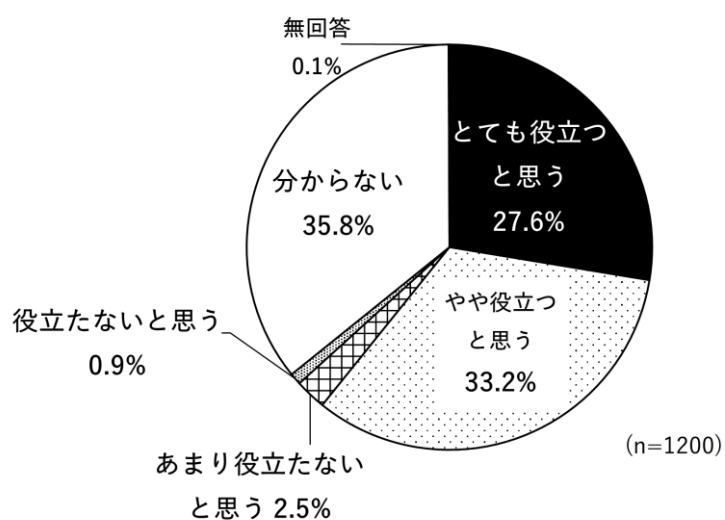


(2) フェムテックへの期待度

Q46. フェムテックは女性特有の健康課題の解消に役立つと思いますか。

フェムテックへの期待度については、「分からない」との回答が最も高く、35.8%となっている。次いで、「やや役立つと思う」が33.2%、「とても役立つと思う」が27.6%となっている。「とても役立つと思う」と「やや役立つと思う」を合わせると、フェムテックが女性特有の健康課題解消に役立つと思う人の割合は60.8%となっている。

図表IV-4 フェムテックへの期待度



V. 職場の支援やサポートの整備状況

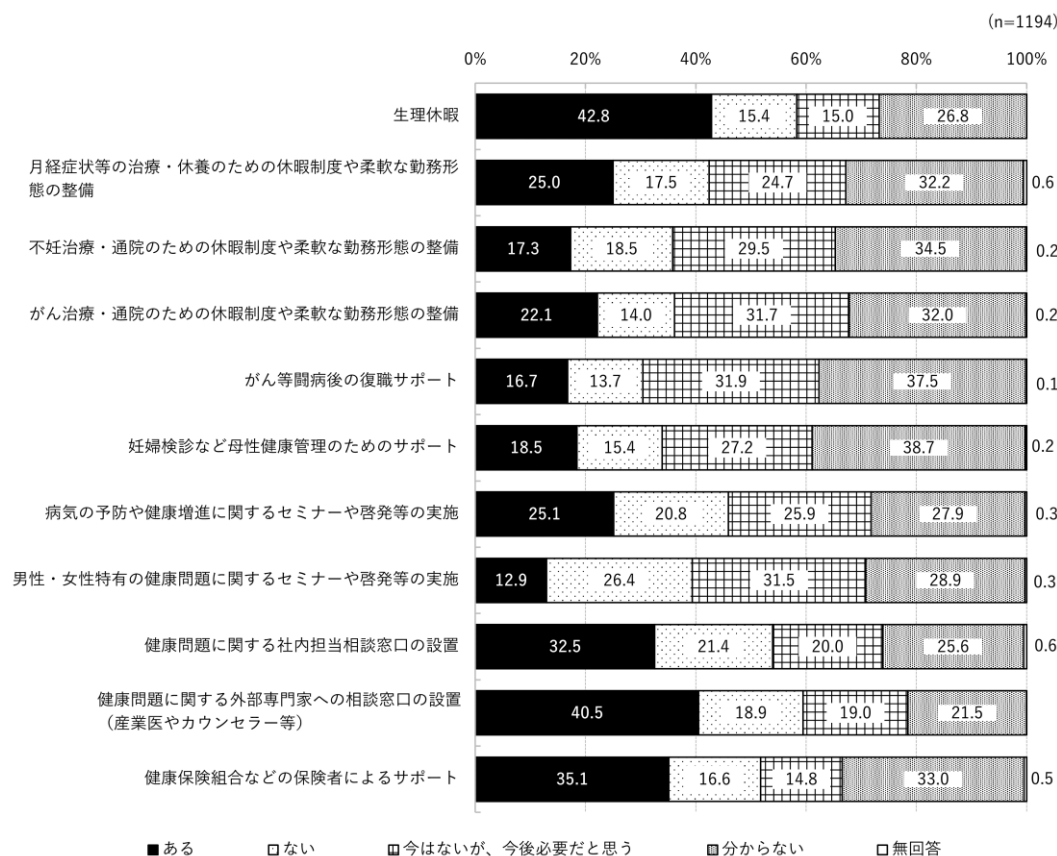
1. 健康課題対応のための制度やサポートの整備状況

Q47. 健康課題対応のための以下の制度やサポートは、勤務先に整備されていますか。

健康課題対応のための制度やサポートの整備状況を聞いたところ、勤務先に制度やサポートが「ある」との回答が最も高いのは「生理休暇」で42.8%、次いで「健康問題に関する外部専門家への相談窓口の設置（産業医やカウンセラー等）」で40.5%となっている。なお「生理休暇」に関しては、「ない」が15.4%、「今はないが今後必要だと思う」が15.0%となっている。

また、いずれの制度やサポートにおいても「分からない」の回答が2割以上を占めており、特に「妊婦検診など母性健康管理のためのサポート」で38.7%、「がん等闘病後の復職サポート」では37.5%となっている。

図表 V-1 健康課題対応のための制度やサポートの整備状況

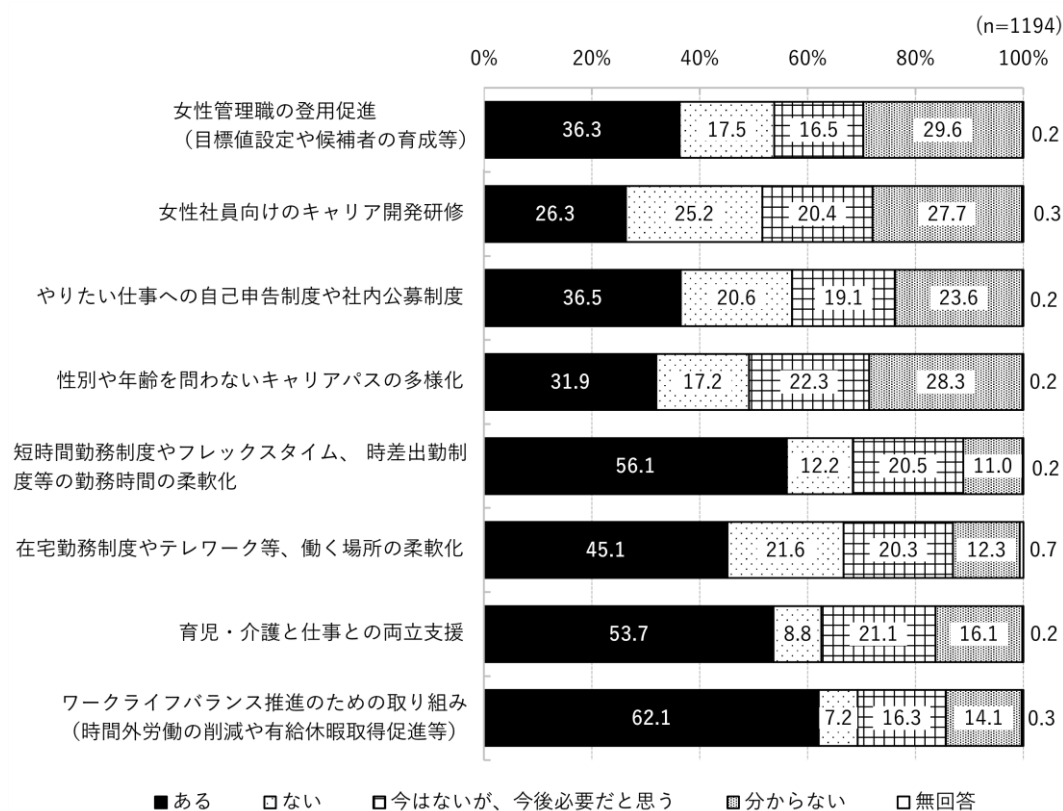


2. キャリアや働き方支援のための制度やサポートの整備状況

Q48. キャリアや働き方支援のための以下の支援やサポートは、勤務先に整備されていますか。

キャリアや働き方支援のための制度やサポートの整備状況を聞いたところ、勤務先に制度やサポートが「ある」との回答が最も高いのは「ワークライフバランス推進のための取り組み（時間外労働の削減や有給休暇取得促進等）」で62.1%、次いで「短時間勤務制度やフレックスタイム、時差出勤制度等の勤務時間の柔軟化」で56.1%、「育児・介護と仕事との両立支援」で53.7%となっている。

図表V-2 キャリアや働き方支援のための制度やサポートの整備状況



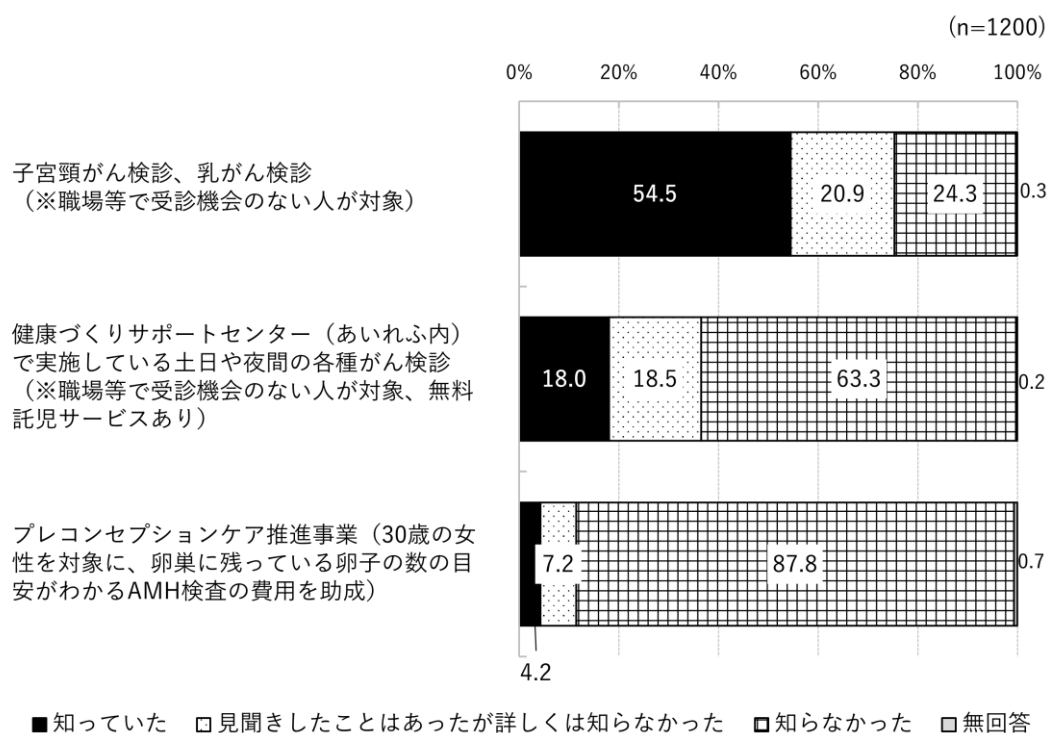
VI. 福岡市事業や市政に対する認識

1. 本市事業の認知度

Q44. 福岡市が次のような検診や事業を行っていること知っていますか。

本市事業の認知度をみると、「子宮頸がん検診、乳がん検診」では、「知っている」の割合が最も高く、54.5%となっている。一方、「健康づくりサポートセンター（あいれふ内）で実施している土日や夜間の各種がん検診」では、「知らない」の割合が最も高く、63.3%である。「プレコンセプションケア推進事業」では、「知らない」の割合が最も高く、87.8%となっている。

図表VI-1 本市事業の認知度



2. 行政へ望むこと

Q49. 健康課題と仕事との両立課題を解消するために行政に望むことがあれば教えてください。

行政へ望むことについては、「市民・市内企業の理解を深める」の割合が最も高く、全体の42.7%を占める。以下、回答割合の高い方から「健康経営を促進するための企業への啓発（セミナーや研修の実施）」38.0%、「企業の取組事例紹介（経験談やサポート体制等）」32.8%の順となっている。

図表VI-2 行政へ望むこと
(複数回答)

